

平成22年度

事業報告書

I 法人の概要

II 事業の概要

III 財務の概要



東邦大学



The page contains a large, faint watermark that reads "Copyrighted material".

I 法人の概要

1. 建学の精神	4
2. 沿革	5
3. 組織	6
4 役員	8
5. 学長・学部長・病院長・校長	8
6. 教職員数	9
7. 土地および建物	10
8. 設置する学部・学校	11
(1)概要	11
(2)入学試験、国家試験、卒業後進路等の状況	19
(3)外部資金の獲得状況	29
9. 附属病院	31
(1)概要	31
(2)診療科別入院・外来患者数	33
(3)診療収入	39
(4)過去5年間の推移	40

II 事業の概要

1. 教育	42
(1)大学における入学志願者および優秀な学生の確保	42
(2)国家試験合格率の高位安定化	42
(3)特色ある教育への取り組み	42
(4)教学環境の整備	43
(5)医学部機構改革の点検に基づいた実質的な改革の推進【医学部】	43
(6)6年制薬学教育【薬学部】	43
(7)理学部教育開発センターの充実と就職支援の強化【理学部】	43
(8)看護学部開設への改組準備【看護学科】	44
(9)東邦大学国際交流センターの開設	44
(10)附属東邦中・高等学校の教育	44
(11)駒場東邦中・高等学校の教育	44
(12)佐倉看護専門学校の教育と学生確保	44

2. 研究	44
(1) 研究の活性化と外部資金の獲得	44
(2) 大学院の充実	45
3. 医療	45
(1) 医療センター大森病院	45
(2) 医療センター大橋病院	46
(3) 医療センター佐倉病院	46
(4) 羽田空港クリニック	46
(5) 羽田空港国際線クリニックの開設	46
(6) 3付属病院の看護師等確保の活動	46
(7) 看護キャリア支援センターの開設	46
4. 管理運営	47
(1) 財政基盤の強化	47
(2) 大橋病院新病院建設計画の推進	47
(3) 耐震補強計画の早期実行	47
(4) ブランディング・プロジェクトの推進およびホームページの充実	47
(5) 「東邦大学広報」の内容の一新および配布範囲の拡大	47
(6) 産学連携プロジェクトの推進	47
(7) エコ・省エネ活動の推進	48
(8) 額田記念東邦大学資料室のオープン	48
(9) 創立90周年記念事業の推進	48
(10) 株式会社東邦キャンパスサービス	48

Ⅲ 財務の概要

1. 消費収支決算の概要	50
2. 消費収支決算の推移	53
(1) 帰属収入の推移	53
(2) 消費支出の推移	54
3. 設備投資等	55
4. キャッシュフロー計算書	56
5. 貸借対照表	57
(1) 貸借対照表	57
(2) 貸借対照表の推移	58
(3) 主要財務指標の動向	59
6. 財産目録	60
学校法人東邦大学所在地一覧	61



I 法人の概要

1. 建学の精神

「自然・生命・人間」

人生はわれらの内心の表現であり
日々の行為はわれらの内心の絶え間ない現われである
それゆえ心の持ち方ほど大切なものはない

何のために自然と人生を探求するのであるか
何のために自分を反省するのか
それは人間らしく生きたいからである

いかに理知に富んでいても
しっかりした人生の目標がなく
ただその日その日を過ごしていたならば
ちょうど かががなくって航海する船のようなものである

人間は人間だけで生きているのではない
われわれのまわりには山あり川あり
草あり木あり あらゆるものがある
その中に人間として生をうけたのである

人間はもともと大自然の一部分として
自然界のうちに生き
大自然のうちに生命を託しているのである

幽玄をきわめた大自然のうちに一身をゆだねて
心ゆくばかりその靈妙な情調を経験するときほど
人間は幸福な祝福にみちた時はない

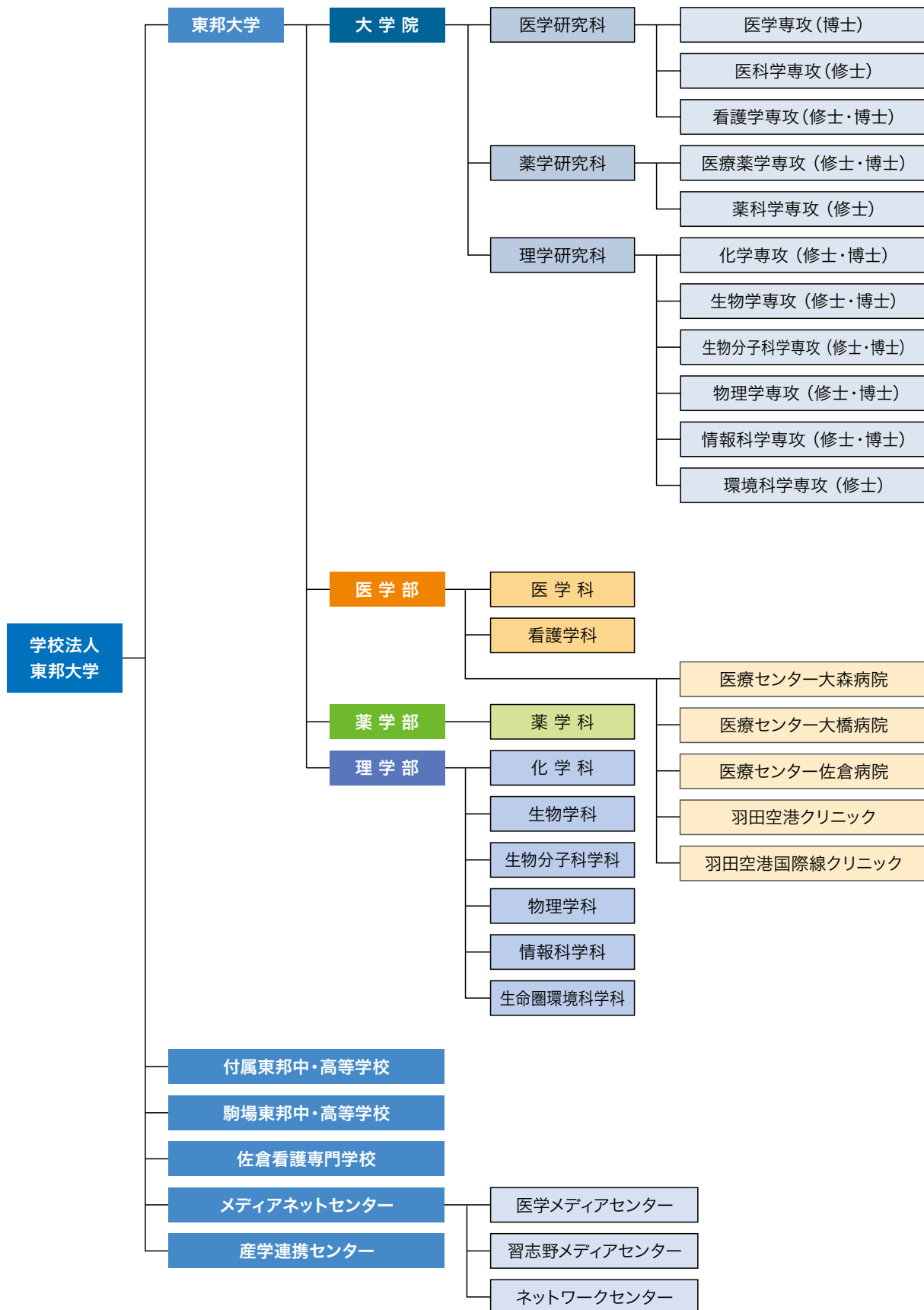
額田晉(1957年著)『自然・生命・人間』より

2. 沿革

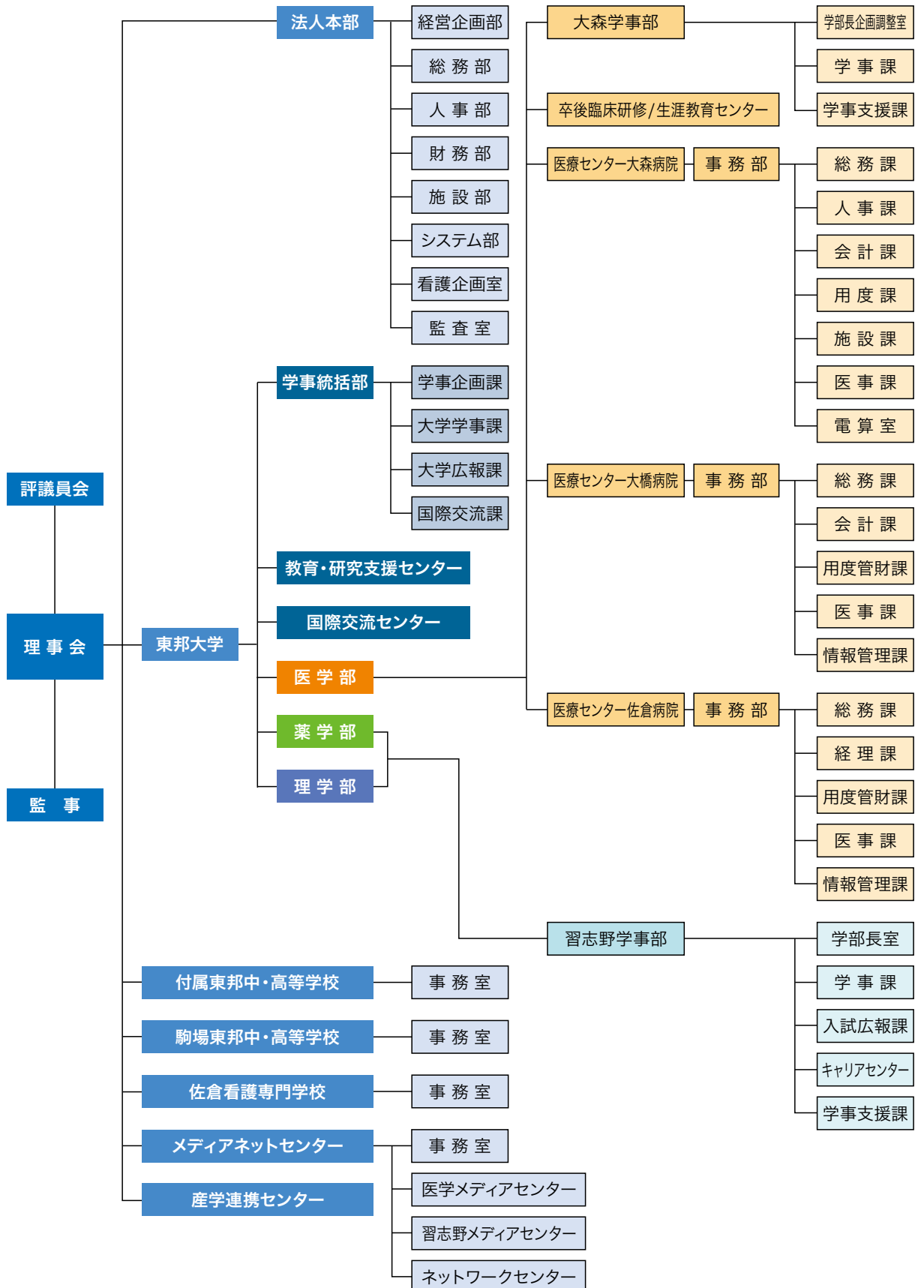
大正14年(1925)	帝国女子医学専門学校 開設
	帝国女子医学専門学校付属病院 開設
大正15年(1926)	帝国女子医学専門学校付属看護婦養成所 開設
昭和2年(1927)	帝国女子医学専門学校に薬学科を増設
昭和16年(1941)	帝国女子理学専門学校 開設
昭和22年(1947)	東邦医科大学付属病院(現大森病院) 開設
昭和25年(1950)	東邦女子医学薬学・理学専門学校や東邦医科・薬科大学などを経て東邦大学が誕生
昭和27年(1952)	東邦大学付属東邦高等学校 開設
昭和32年(1957)	駒場東邦中学校 駒場東邦高等学校 開設
昭和34年(1959)	東邦大学大学院医学研究科 開設
昭和36年(1961)	東邦大学付属東邦中学校 開設
昭和39年(1964)	東邦大学医学部付属大橋病院 開設
昭和40年(1965)	東邦大学医学部付属高等看護学校 開設
昭和54年(1979)	東邦大学大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程 開設
昭和56年(1981)	東邦大学大学院薬学研究科医療薬学専攻博士課程 開設
昭和57年(1982)	東邦大学理学部物理学科 開設
	東邦大学大学院理学研究科化学・生物学専攻修士課程 開設
昭和59年(1984)	東邦大学大学院理学研究科化学・生物学専攻博士課程 開設
昭和60年(1985)	東邦大学医療短期大学看護学科 開設
昭和61年(1986)	東邦大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程 開設
昭和63年(1988)	東邦大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程 開設
平成元年(1989)	東邦大学理学部生物分子学科・情報科学科 開設
平成3年(1991)	東邦大学佐倉看護専門学校 開設
	東邦大学医学部付属佐倉病院 開設
平成5年(1993)	東邦大学大学院理学研究科生物分子科学・情報科学専攻修士課程 開設
平成7年(1995)	東邦大学大学院理学研究科生物分子科学専攻博士課程 開設
平成8年(1996)	東邦大学大学院理学研究科情報科学専攻博士課程 開設
平成14年(2002)	東邦大学医学部看護学科 開設
平成17年(2005)	東邦大学理学部生命圏環境科学科 開設
平成18年(2006)	東邦大学大学院医学研究科医科学および看護学専攻修士課程 開設
	東邦大学薬学部薬学科(6年制) 開設
平成21年(2009)	東邦大学大学院理学研究科環境科学専攻修士課程 開設
平成22年(2010)	東邦大学大学院医学研究科看護学専攻博士課程 開設
	東邦大学大学院薬学研究科薬科学専攻修士課程 開設

3. 組織

① 法人組織



② 事務組織および教育・研究支援組織



4. 役員

平成22年5月1日現在

理事長	炭山嘉伸	(東邦大学名誉教授)
理事	青木継稔	(東邦大学学長)
常務理事	磯野信行	(財務・施設担当)
常務理事	山澤一郎	(総務・人事担当)
理事	黒田 優	(医学部長)
理事	井上義雄	(薬学部長)
理事	大島範子	(理学部長)
理事	杉本元信	(大森病院長)
理事	渡邊俣充	(駒場東邦中・高等学校長)
理事	山崎純一	(医学部教授)
理事	高橋良哉	(薬学部教授)
理事	小林芳郎	(理学部教授)
理事	舩松 洋	(医学部東邦会会長)
理事	塚原英基	(薬学部鶴風会理事長)
理事	鮫島寛次	(東邦大学名誉教授)
理事	伊藤元博	(東邦大学名誉教授)
監事	西込明彦	(弁護士)
監事	望月正芳	(公認会計士)

5. 学長・学部長・病院長・校長

平成22年5月1日現在

東邦大学学長	青木継稔
医学部長	黒田 優
薬学部長	井上義雄
理学部長	大島範子
大森病院長	杉本元信
大橋病院長	甲田英一
佐倉病院長	田上 恵
付属東邦中・高等学校長	小高昌次
駒場東邦中・高等学校長	渡邊俣充
佐倉看護専門学校長	拜原優子

6. 教職員数

平成22年5月1日現在

教員

	教授	准教授	講師	助教	合計
医学部	108	78	100	324	610
薬学部	23	14	22	11	70
理学部	53	28	18	—	99
合計	184	120	140	335	779

教職員総合計
3,955人

※特任・常勤嘱託・再雇用・非常勤職員は除く

	教 諭		講 師		専任教員	合 計	非常勤講師	
	中学	高校	中学	高校			中学	高校
付属東邦中高	41	59	3	2	—	105	11	18
駒場東邦中高	39	40	—	1	—	80	21	12
佐倉看護専門学校	—	—	—	—	9	9	—	—
合計	80	99	3	3	9	194	32	30

職員

	事務	技術	医療技術	看護	技能	その他	合計
法人本部	49	—	—	5	—	—	54
産学連携センター	1	—	—	—	—	—	1
学事統括部	13	—	—	—	—	—	13
教育・研究支援センター	1	—	—	1	—	—	2
医学部	4	21	—	—	—	—	25
大森学事部	28	—	—	—	—	1	29
大森病院	110	—	251	1,060	14	2	1,437
大橋病院	65	—	143	457	—	1	666
佐倉病院	76	—	89	492	1	—	658
薬学部	1	—	—	—	1	—	2
理学部	—	3	—	—	—	—	3
習志野学事部	42	—	—	1	—	—	43
付属東邦中高	7	2	—	—	—	—	9
駒場東邦中高	7	—	—	—	—	—	7
佐倉看護専門学校	3	—	—	—	—	—	3
メディアネットセンター	30	—	—	—	—	—	30
合計	437	26	483	2,016	16	4	2,982
主な内訳	事務員 350 司書 23 その他 64	技術員 19 研究補助員 5 理科実験助手 2	薬剤師 109 放射線技師 91 臨床検査技師 152 栄養士 34 その他 97	看護師 1,952 准看護師 11 看護補助員 53	電話交換手 7 保育員 8 園芸技術員 1	用務員 4	

※特任、常勤嘱託職員、再雇用職員、非常勤職員は除く

7. 土地および建物

土地

(単位：m²)

	所在	面積	使 途 内 訳			
			校舎	運動場	付属病院	その他
医学科	大田区大森西5	24,247.02	18,549.56	2,132.00	3,510.78	54.68
看護学科	大田区大森西4	3,359.77	3,359.77	—	—	—
大森病院	大田区大森西6	22,818.89	—	—	22,286.95	531.94
保育園	大田区大森西5	193.34	—	—	—	193.34
大橋病院	目黒区大橋2	8,762.53	311.32	—	7,345.45	1,105.76
佐倉病院	佐倉市下志津564	40,444.00	—	—	39,984.82	459.18
薬学部	船橋市三山2	33,549.12	16,759.79	—	—	16,789.33
理学部	//	13,662.33	13,662.33	—	—	—
薬学部・理学部共用	//	80,959.21	27,072.96	53,886.25	—	—
付属東邦中高	習志野市泉町2	50,943.89	25,858.16	25,085.73	—	—
駒場東邦中高	世田谷区池尻4	20,037.02	10,692.01	9,345.01	—	—
佐倉看護専門学校	佐倉市下志津292-13	4,835.00	4,282.69	—	—	552.31
大学寄宿舍(男)	習志野市泉町2	2,598.38	1,787.08	—	—	811.30
大学寄宿舍(女)	船橋市三山2	4,494.00	3,509.25	—	—	984.75
軽井沢山荘	長野県軽井沢町	6,611.57	—	—	—	6,611.57
合計		317,516.07	125,844.92	90,448.99	73,128.00	28,094.16

※校舎用地には、厚生・体育館・図書館を含む

※その他は、実習地・寄宿舍・看護師宿舎を含む

※所有地：316,477.20m² (貸地：110.68m²含む)※借地：1,038.87m²

建物

(単位：m²)

	棟数	面積	使 途 内 訳			
			校舎	体育施設	付属病院	その他
医学科	16	39,588.87	36,978.21	2,068.39	542.27	—
看護学科	5	7,101.16	7,101.16	—	—	—
大森病院	16	72,281.55	1,786.10	—	64,759.12	5,736.33
保育園	1	301.15	—	—	—	301.15
大橋病院	14	28,577.57	4,338.60	—	22,095.14	2,143.83
佐倉病院	9	49,001.54	1,735.16	—	37,313.10	9,953.28
薬学部	21	27,493.12	27,493.12	—	—	—
理学部	13	33,582.10	33,294.10	288.00	—	—
薬学部・理学部共用	27	16,299.20	14,403.78	1,895.42	—	—
付属東邦中高	25	28,420.88	20,417.63	6,143.25	—	1,860.00
駒場東邦中高	7	17,631.61	13,993.51	3,638.10	—	—
佐倉看護専門学校	4	4,193.08	1,962.01	264.88	—	1,966.19
大学寄宿舍(男)	1	1,799.50	—	—	—	1,799.50
大学寄宿舍(女)	3	2,208.75	—	—	—	2,208.75
軽井沢山荘	3	276.20	—	—	—	276.20
合計	165	328,756.28	163,503.38	14,298.04	124,709.63	26,245.23

※校舎とは、講義室・実験室・研究室・図書館・管理厚生関係を含む

※その他とは、寄宿舍・看護師宿舎・その他を含む

※大橋病院(校舎)には、賃借：2,084.84m²を含む

8. 設置する学部・学校

(1) 概要

① 大学

1925(大正14)年、額田豊・額田晋両先生は、女子の医学・薬学・理学という理科学教育の向上と健全な人間性の育成を目標として、私財を投じてまず帝国女子医学専門学校を大森地区(現在の医学部医学科所在地)に創設した。翌年薬学科を増設し、1941(昭和16)年に帝国女子理学専門学校を併設した。これが現在の東邦大学の前身である。

1945(昭和20)年4月の戦禍により施設が焼失したため、1946(昭和21)年帝国女子医学薬学専門学校薬学科および理学専門学校は大森の地から千葉県習志野に移転し、翌年名称も東邦と改めた。さらに学制の改革に伴い、1950(昭和25)年より医・薬・理3学部を有する男女共学の自然科学系総合大学として再発足し、その後今日まで、わが国の自然科学教育において重要な役割を果たしてきた。現在3学部はそれぞれ大学院3研究科を、また医学部は大森・大橋・佐倉の各地に付属病院を有し、教育・研究・診療面において広く社会に貢献している。なお医学部看護学科は2011(平成23)年4月から新たに看護学部看護学科としてスタートすることとなった。

東邦大学の教育は、創立者のひとり額田晋先生の著書『自然・生命・人間』に記されているように、自然に対する畏敬、生命の尊厳の自覚、人間の謙虚な心を原点として、豊かな人間性と均衡のとれた知識を有する人材の育成を目標としている。これに基づき、各学部それぞれが特色を持った目標を掲げながらも学部間の連携を緊密にとり、優秀な入学志願者の確保や優れた教員の登用はもとより、施設・設備の充実にも力を入れ、時代の要請に応じたより高度な教育・研究体制を整備しながら目標達成に向けて日々研鑽に努めている。

学生数

平成22年5月1日現在

区分		学年						合計
		1	2	3	4	5	6	
医学部	医学科	119 (41)	119 (39)	96 (38)	99 (38)	105 (39)	103 (39)	641 (234)
	看護学科	113 (104)	118 (110)	103 (95)	118 (109)	— (—)	— (—)	452 (418)
	小計	232 (145)	237 (149)	199 (133)	217 (147)	105 (39)	103 (39)	1,093 (652)
薬学部	薬学科(6年制)	247 (154)	254 (163)	238 (152)	223 (140)	227 (136)	— (—)	1,189 (745)
	小計	247 (154)	254 (163)	238 (152)	223 (140)	227 (136)	— (—)	1,189 (745)
理学部	化学科	103 (46)	86 (38)	129 (44)	96 (35)	— (—)	— (—)	414 (163)
	生物学科	106 (48)	92 (45)	99 (45)	113 (51)	— (—)	— (—)	410 (189)
	生物分子科学科	109 (66)	96 (56)	85 (56)	111 (75)	— (—)	— (—)	401 (253)
	物理学科	78 (9)	73 (17)	75 (17)	96 (13)	— (—)	— (—)	322 (56)
	情報科学科	123 (29)	112 (28)	118 (24)	126 (22)	— (—)	— (—)	479 (103)
	生命圏環境科学科	86 (32)	85 (38)	83 (32)	88 (34)	— (—)	— (—)	342 (136)
	小計	605 (230)	544 (222)	589 (218)	630 (230)	— (—)	— (—)	2,368 (900)
合計		1,084 (529)	1,035 (534)	1,026 (503)	1,070 (517)	332 (175)	103 (39)	4,650 (2,297)

※()は女子内数

大森キャンパス（医学部）

<所在地>

医学科 東京都大田区大森西5-21-16 TEL 03-3762-4151
看護学科 東京都大田区大森西4-16-20 TEL 03-3762-9881

医学部 医学部には帝国女子医学専門学校以来の伝統を受け継ぐ医学科と、2002(平成14)年に東邦大学医療短期大学から改編・開設された看護学科が設置されている。「より良き医療人の育成」を教育理念とし、医療チームの一員として自ら問題を見つけ出し、考えて判断を下し、そしてそれを解決する能力を持った医師や看護者を育てている。

また、近年の高度化・多様化する医療現場への対応はもちろん患者さんの視点から考え、行動できる豊かな人間性を養うため、将来にわたる自己研鑽の基礎づくりを行うことに力を注いでいる。

看護学科

- A 看護学科研究棟
- B 看護学科本館
- C 看護学科1号館

医学科

- D 体育館
- E 学生会館
- F 医学部1号館
- G 医学部2号館
- H 医学部本館
- I 医学部3号館

医療センター大森病院

- J 病院1号館
- K 病院事務棟
- L 病院2号館
- M 病院6号館
- N 病院3号館
- O 第2臨床研究棟
- P 第1臨床研究棟
- Q 病院5号館



医学科



看護学科



習志野キャンパス (薬学部・理学部)

<所在地>

千葉県船橋市三山2-2-1 TEL 047-472-9199

薬学部

薬学部では「人々の健康に責任をもつ医療の担い手」を育てることをめざし、従来の調剤中心の薬剤師だけでなく、医師・看護師とともにチーム医療に当たる臨床薬剤師の育成に大きな力を注いでいる。薬剤師法改正による6年制への移行にいち早く対応し、医学部や附属病院との連携による病院実習やカリキュラムの充実を図っている。

理学部

理学部では化学科、生物学科、物理学科、生物分子科学科、情報科学科、生命圏環境科学科の基礎理学から最先端の応用分野まで視野に入れた6学科を設置し、さらに教養科も備え、専門性と人間性を備えた研究者、科学技術者を育成している。

各分野の基礎から応用までをバランス良く指導するとともに、研究室を中心に教員と学生が深く関わりながら教育・研究を進め、学生の問題解決能力を養っていくところが大きな特徴である。

また、本学医学部や薬学部、外部研究機関との連携による教育・研究にも積極的に取り組んでいる。

- A テニスコート
- B グラウンド
- C 野球場
- D 薬木園
- E 学生部室1号館
- F 学生部室2号館
- G メディカルハーブガーデン
- H 教養2号館
- I 教養1号館
- J 習志野メディアセンター(図書館)
- K 薬用植物見本園(薬草園)
- L 学生食堂(PAL)
- M 学生ラウンジ
- N 東邦会館
(キャリアセンター・マルチメディアラウンジ)
- O 体育館

薬学部

- P 薬学部A館
- Q 薬学部B館
- R 薬学部C館
- S 薬学部E館

理学部

- T 理学部I号館
- U 理学部II号館
- V 理学部III号館
- W 理学部IV号館
- X 理学部V号館



薬学部



理学部



② 大学院

東邦大学大学院は、医学研究科が1959(昭和34)年、薬学研究科が1979(昭和54)年、理学研究科が1982(昭和57)年にそれぞれ設置された。修士・博士の学位をもつ者にふさわしい豊かな心と見識をもち、新しい時代に活躍する独創的な人材を育成するに相応しい教育環境のなかで、これからの自然科学界を担う研究者を多数輩出している。

医学研究科 医科学専攻(修士)
看護学専攻(修士)
医学専攻(博士)
看護学専攻(博士)

薬学研究科 医療薬学専攻(修士・博士)
薬科学専攻(修士)

理学研究科 化学専攻(修士・博士)
生物学専攻(修士・博士)
生物分子科学専攻(修士・博士)
物理学専攻(修士・博士)
情報科学専攻(修士・博士)
環境科学専攻(修士) ※博士課程 平成23年4月1日開設

学生数

平成22年5月1日現在

区分 \ 学年	1	2	3	4	5	6	合計
医学研究科(修士)	12 (11)	14 (13)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	26 (24)
医学研究科(博士)	34 (15)	27 (7)	30 (10)	46 (13)	— (—)	— (—)	137 (45)
薬学研究科(修士)	12 (5)	63 (32)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	75 (37)
薬学研究科(博士)	16 (4)	5 (1)	2 (1)	— (—)	— (—)	— (—)	23 (6)
理学研究科(修士)	114 (30)	94 (23)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	208 (53)
理学研究科(博士)	4 (1)	6 (3)	5 (3)	— (—)	— (—)	— (—)	15 (7)
合計	192 (66)	209 (79)	37 (14)	46 (13)	— (—)	— (—)	484 (172)

※ ()は女子内数

③ 付属東邦中・高等学校

1952(昭和27)年4月、最初の付属学校として、東邦大学付属東邦高等学校が習志野西地区に開校、1961(昭和36)年4月東邦大学付属東邦中学校が併設された。その後、東邦大学理学部との校地交換により1973(昭和48)年9月東地区に新築された新校舎に移転するとともに、年々生徒に活気がみなぎり、学校の評価も高まっている。1995(平成7)年3月に特別教室棟および第二体育館を、さらに2005(平成17)年7月にはセミナー館を新築した。また、2006(平成18)年8月中・高校棟の耐震補強工事を実施し生徒の安全確保に努めた。2009(平成21)年7月には旧白羽寮を宿泊の可能な多目的研修施設として改修し習志館と名づけた。創立者による「自然・生命・人間」を建学の理念として掲げて、志と質の高い教育実践に努めている。

<所在地>

千葉県習志野市泉町2-1-37

TEL 047-472-8191



<教育方針>

1. 「自然・生命・人間」の尊重を建学の精神とする東邦大学の付属校として、生徒、教師、保護者相互の理解と信頼により、自然を畏敬し、生命を尊び、心の向上をめざす明るい学園を築く。
2. 中・高6ヵ年一貫の教育課程を編成し、精選した学習内容と多様な学習活動を通じて、真に豊かな学力を培う。
3. 真理と人生への高い志を持ち、不断の自己鍛錬と謙虚な自己省察により、自らの可能性の開発に努める若人を育てる。
4. 友情と思いを深め、公共心を高め、自主・自律的な質の高い集団をめざす。
5. 日本文化への深い理解と国際的な視野を持ち、地球の平和に貢献できる有為な若人を育てる。

学級数および生徒数

平成22年5月1日現在

学 年	中学校				高等学校				総 数	
	1	2	3	合計	1	2	3	合計		
学級数	7	7	7	21	11	9	9	29	50	
生徒数	男	177	184	164	525	284	264	217	765	1,290
	女	111	100	90	301	163	114	138	415	716
合計(生徒数)	288	284	254	826	447	378	355	1,180	2,006	

④ 駒場東邦中・高等学校

1957(昭和32)年、当時の理事長兼学長の額田豊博士と元日比谷高等学校長菊地龍道との抱負の一致により、初代校長菊地龍道(昭和41年8月20日逝去)のもとに、18名の教職員と約300名の生徒とで発足。以来、50余年の豊かな知性と人間性を育む中高一貫教育の地道な実践により、全国的にも良く知られた進学校として多くの成果をあげている。

<所在地>

東京都世田谷区池尻4-5-1
TEL 03-3466-8221



<教育方針>

生徒・教師・父母三者相互の理解と信頼によって、明るく楽しい学園をつくり、生徒各自の個性を伸ばし、能力を高め、豊かな知性と科学的教養を身につけた、健康で実践力に富む有為な人間を育成する。

<指導方針>

1. 中学・高校の教材を有機的かつ系統的に整理し、6ヵ年一貫教育によって学習を能率化し、教育効果をあげるとともに特別活動・クラブ活動の充実を図り、魅力ある青年の育成に努める。
2. 英語・数学・理科実験においては、学習効果をあげるため、学年によって一学級を分割し、少数教育を行い、さらに英語教育の推進のために外国人教師を導入し、コミュニケーション能力の充実を図る。
3. 高学年においては生徒の適性・能力・希望に応じて、進学志望別に教育課程を編成するなど進路指導の充実を図る。
4. 一人ひとりの実践力・創造力・判断力などを養うために、日々の積み重ね学習と規律ある生活態度とを重んずる教育に努める。

学級数および生徒数

平成22年5月1日現在

学年	中学校				高等学校				総数
	1	2	3	合計	1	2	3	合計	
学級数	6	6	6	18	5	5	5	15	33
生徒数	240	240	237	717	241	234	232	707	1,424

⑤ 佐倉看護専門学校

本校は、本学佐倉病院事業計画の一環として、東邦大学医学部付属佐倉病院の設置（1991（平成3）年9月開院）とともにその隣接地に設置され、1991（平成3）年4月に開校した。

本校卒業生は、本学付属病院の安定的な看護師確保、ひいては佐倉市およびその周辺地域の医療の充実を図るものとして大いに活躍が期待され、既に卒業生は670名を数えた。

1995（平成7）年1月から卒業認定者には、専門士（医療専門課程）の称号が授与されることとなった。

<所在地>

千葉県佐倉市下志津 292-13
TEL 043-462-8811



<教育理念>

本校は、東邦大学の建学の精神を基盤にして、豊かな自然環境のなかで、人間の『生きる』ことや『生命の尊厳』について考え、調和のとれた人を育むことをめざしている。

また、変化する社会のなかで看護専門職業人として、人々のニーズに対応できる能力・創造的に看護実践できる能力を養い、保健・医療・福祉に貢献できる人材を育成する。

<教育目的>

看護の専門職業人として必要な知識、技術、態度を教授し、社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

<教育目標>

1. 生命の尊厳の理念に基づき、看護の対象である人間を統合的に理解する能力を養う。
2. 自己を理解するとともに他者を理解し、視野の広い心身ともに調和のとれた健康な人間の育成を図る。
3. 対象に応じた健康上の問題発見ができ、その解決策と実践評価できる基礎的能力を育成する。
4. 保健医療チームの一員として他職種と協調し、主体的に看護の役割が果たせる能力を養う。
5. 看護の専門職業人として自己の能力を適正に評価し、生涯学習が継続できる能力を養う。

<卒業後の資格取得>

看護師国家試験受験資格
保健師学校受験資格
助産師学校受験資格

学生数

平成22年5月1日現在

学年	1	2	3	合計
看護学科 (3年課程)	48	39	36	123

⑥ メディアネットセンター

(1) 図書・雑誌蔵書数

平成23年3月31日現在

	図書			雑誌(誌数)			電子 ジャーナル
	和書	洋書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計	
医学メディアセンター	155,975	104,612	260,587	1,046	518	1,564	4,114 (契約分)
習志野メディアセンター (薬・理学部)	131,523	80,236	211,759	1,155	1,069	2,224	
合計	287,498	184,848	472,346	2,201	1,587	3,788	

※医学メディアセンターの蔵書数には大橋病院図書室、佐倉病院図書室、看護学科図書室を含む

(2) 平成22年度利用状況

	開館日数	貸出		入館者数
		冊数	人数	
医学メディアセンター	361	7,006	4,342	218,077
習志野メディアセンター (薬・理学部)	333	27,608	15,864	224,680

(3) 平成22年度相互貸借利用状況

	貸 (他より依頼)	借 (他へ依頼)
医学メディアセンター	6,297	1,958
習志野メディアセンター (薬・理学部)	650	834

(2) 入学試験、国家試験、卒業後進路等の状況

① 学生生徒定員・志願者・入学者・在籍者・卒業生数

学部・校	区分	入学定員	収容定員 ^(※1)	平成22年度 ^(※12)				
				志願者数	入学者数	在籍者数	卒業・修了生数	
大学院	医学研究科(修士)	17	34	13 (11)	12 (11)	26 (24)	12 (11)	
	医学研究科(博士)	28	97	37 (16)	34 (15)	137 (45)	^(※2) 28 (8)	
	薬学研究科(修士)	10	20	13 (5)	12 (5)	75 (37)	62 (31)	
	薬学研究科(博士)	5	15	16 (4)	16 (4)	23 (6)	2 (1)	
	理学研究科(修士)	89	178	164 (45)	114 (30)	208 (53)	^(※3) 91 (22)	
	理学研究科(博士)	21	63	4 (1)	4 (1)	15 (7)	^(※4) 2 (—)	
	大学院合計	170	407	247 (82)	192 (66)	484 (172)	197 (73)	
大学	医学部	医学科	110	620	2,259 (833)	110 (40)	641 (234)	100 (39)
		看護学科	102	407	601 (553)	112 (103)	452 (418)	^(※5) 113 (104)
	薬学部	薬学科(6年制)	220	1,320	^(※10) 1,906 (1,079)	^(※11) 238 (149)	1,189 (745)	— (—)
	理学部	化学科	80	320	1,367 (541)	103 (46)	414 (163)	90 (35)
		生物学科	80	320	1,040 (425)	105 (48)	410 (189)	^(※6) 105 (49)
		生物分子科学科	80	320	1,047 (555)	109 (66)	401 (253)	102 (74)
		物理学科	70	280	735 (108)	78 (9)	322 (56)	^(※7) 75 (11)
		情報科学科	100	400	720 (147)	123 (29)	479 (103)	^(※8) 116 (22)
		生命圏環境科学科	80	320	587 (218)	85 (31)	342 (136)	^(※9) 76 (30)
	大学合計	922	4,307	10,262 (4,459)	1,063 (521)	4,650 (2,297)	777 (364)	
中・高	付属東邦	中学校	270	810	2,922 (1,033)	288 (111)	826 (301)	254 (90)
		高等学校	368	1,104	1,143 (355)	448 (164)	1,180 (415)	355 (138)
	駒場東邦	中学校	240	720	598 (—)	240 (—)	717 (—)	237 (—)
		高等学校	240	720	— (—)	241 (—)	707 (—)	232 (—)
佐倉看護専門学校		40	120	178 (155)	47 (42)	123 (116)	32 (31)	
合計		2,250	8,188	15,350 (6,084)	2,519 (904)	8,687 (3,301)	2,084 (696)	

※()は女子内数

(※1) 完成年度に達していない課程・学科については、完成年度の収容定員とした

(※2) 満期退学者13(3)を含む

(※3) 平成22年度秋修了生1(—)を含む

(※4) 満期退学者1(—)名を含む

(※5) 平成22年度秋卒業生2(2)を含む

(※6) 平成22年度秋卒業生5(1)を含む

(※7) 平成22年度秋卒業生2(—)を含む

(※8) 平成22年度秋卒業生1(—)を含む

(※9) 平成22年度秋卒業生1(—)を含む

(※10) 2年次編入学試験志願者7(4)を除く

(※11) 2年次編入学者2(1)を除く

(※12) 卒業・修了生数は平成23年3月卒業生・修了者数

志願者・入学者・在籍者数は平成22年度学校基本調査に基づく(調査期日:平成22年5月1日)

②大学志願者数の推移(過去10年間)



③ 学納金

(単位:円)

学部・校		区分	受験料	入学金	授業料	教育充実費	施設設備費
大学院	医学研究科 修士課程	医科学専攻	30,000	100,000	500,000	—	100,000
		看護学専攻	30,000	100,000	1,000,000	—	100,000
		長期履修 学生制度	30,000	100,000 ※	800,000 2年次以降 600,000	—	80,000 2年次以降 60,000
	医学研究科 博士課程	医学専攻	30,000	100,000 (本学出身者 50,000)	基礎 100,000 *臨床 400,000 (*本学医学科出身者200,000)	—	—
		看護学専攻	30,000	300,000 ※	400,000	—	100,000
	薬学研究科 修士課程	医療薬学 専攻	30,000	200,000	基礎コース 450,000 臨床コース 550,000	—	150,000 (入学時のみ) 本学出身者は免除
		薬科学専攻	30,000	200,000	450,000	—	150,000 (入学時のみ) 本学出身者は免除
	薬学研究科博士課程		30,000	200,000 本研究科修士課程 出身者は免除	450,000	—	150,000 (入学時のみ) 本学部・本研究科修士 課程出身者は免除
	理学研究科修士課程		20,000	100,000	500,000	—	100,000 (入学時のみ)
	理学研究科博士課程		20,000	100,000 本研究科修士課程 出身者は免除	500,000	—	100,000 (入学時のみ) 本研究科修士課程 出身者は免除
大学	医学部	医学科	60,000	1,500,000	2,800,000	2,000,000 2年次以降 600,000	1,500,000 2年次以降 1,400,000
		看護学科	40,000	500,000	1,100,000	300,000	500,000
	薬学部		32,000 センター入試 15,000	400,000	1,120,000	750,000 2年次以降 700,000	—
	理学部		31,000 センター入試 11,000	300,000	992,000	300,000 2年次以降 500,000	—
付属東邦中高			22,000	340,000	342,000	—	36,000
駒場東邦中高			25,000	中・220,000 高・110,000	480,000	—	24,000
佐倉看護専門学校			20,000	70,000	380,000 (実習費含む)	—	—

※設置校での教育修了者および関連施設就業者は入学金免除

④ 奨学金等

学費減免制度など	学科	対象者	内容
入学時教育充実費の免除	医学部 医学科	総合成績の優秀な者 10名以内	初年度分医学教育充実費の全額 または一部を免除
	医学部 看護学科	一般入試総合成績の優秀な 者10名以内	初年度分看護学教育充実費全額 または一部を免除
	薬学部	総合成績の優秀な者 40名程度	初年度分薬学教育充実費の全額 または一部を免除
		薬学部卒業生・在学生の 血族2親等までの入学者	入学年度分の教育充実費春学期分を免除
スカラシップ制度	理学部	一般入試・センター試験利用 入試の成績優秀者、各学科4名	入学初年度に100万円の奨学金を給付
特待生制度	医学部 医学科	成績優秀で心身ともに健康な 者、2～6年次の各学年2名程度	授業料のうち最高100万円を免除
	医学部 看護学科	成績優秀で心身ともに健康な 者、2～3年次の各学年2名	授業料の半額を免除
	薬学部	成績優秀で心身ともに健全な者、 各学年全額免除1名、半額免除4名	授業料の全額または半額を免除
	理学部	成績優秀な者、各学科、 2～4年次の各学年各1名	授業料の全額を免除

独自の奨学金制度	学科	貸与人数	内容
東邦大学青藍会(父母会) 奨学金	各学部	医学科7名、看護学科2名、 薬学部8名、理学部5名程度	学費負担者の経済的困窮に対し原則として 学納金の3分の2(限度額)を貸与
東邦大学医学部 東邦会(同窓会)貸与奨学金	医学部 医学科	5名程度	学資支弁が困難で、健康、人物、学業が良好な者 に月額5万円(年間60万円)を貸与
東邦大学薬学部 鶴風会(同窓会)貸与奨学金	薬学部	若干名	学資支弁が困難な者に、学業成績等を 考慮して貸与(最終学年に限る)
東邦大学理学部 鶴風会(同窓会)貸与奨学金	理学部	5名程度(貸与奨学金)	学資支弁が困難な者に、学業成績等を考慮して学納金 (授業料・教育充実費)の半期分(最高限度額)を貸与
東邦大学理学部 鶴風会(同窓会)給付奨学金	理学部	若干名(給付奨学金)	学資支弁が困難で学業成績が優秀かつ学習意 欲のある者に、1名当り100万円を上限に給付
東邦大学医療センター 佐倉病院奨学金	佐倉看護 専門学校	希望者全員貸与	5万円(月額)

国・都道府県の奨学金制度	金額	内容
日本学生支援機構 第一種奨学金(無利子)	自宅5万3千円(月額)(選考) 自宅外6万円(月額)(選考)	人物、学業ともに特に優れ、経済的理由により著 しく修学困難な者に貸与
日本学生支援機構 第二種奨学金(有利子)	3万円・5万円・8万円・10万円・12万円よ り選択(月額)	人物、学業ともに優れ、経済的理由により修学困 難な者に貸与
千葉県看護師等修学資金	1万8千円(月額)(選考)	将来県内において、業務に従事する者に貸与

※その他地方自治体、各種団体の奨学金がある

⑤ 国家試験結果

第105回医師国家試験

	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均(%)
新卒	100 (102)	92 (95)	92.0 (93.1)	92.6 (92.8)
既卒	8 (8)	5 (7)	62.5 (87.5)	60.2 (52.4)
合計	108 (110)	97 (102)	89.8 (92.7)	89.3 (89.2)

※国立平均90.4%・公立平均92.2%・私立平均88.0%
 ※私立29大学中10位(5位)、全国80大学中40位(21位)

第96回薬剤師国家試験

	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均(%)
新卒	— (4)	— (2)	— (50.0)	33.6 (39.7)
既卒	23 (50)	10 (30)	43.5 (60.0)	45.0 (60.4)
合計	23 (54)	10 (32)	43.5 (59.3)	44.5 (56.4)

※国立平均38.5%・公立平均34.9%・私立平均45.8%
 ※6年制移行に伴う過渡期にあたり、新卒者はいない

第57回臨床検査技師国家試験

	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均(%)
理学部	44 (34)	32 (31)	72.7 (91.2)	67.0 (67.8)

※全国平均は専門学校を含む

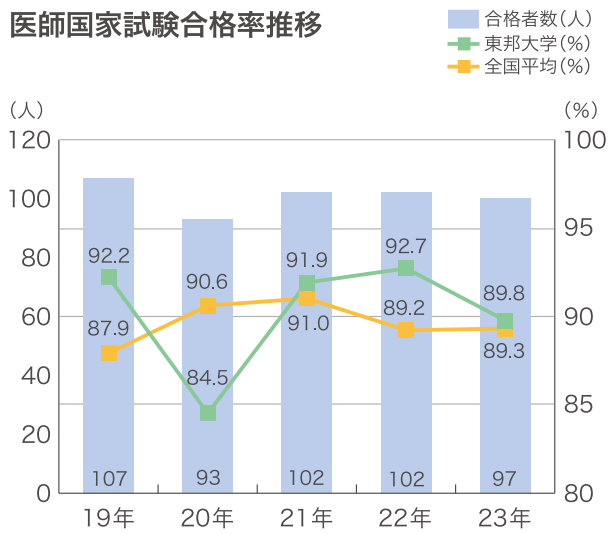
第100回看護師、第97回保健師、第94回助産師国家試験

		受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均(%)
医学部 看護学科	看護師	新卒 107 (106)	106 (104)	99.1 (98.1)	—
		既卒 4 (4)	4 (4)	100.0 (100.0)	—
		合計 111 (110)	110 (108)	99.1 (98.2)	91.8 (89.5)
	保健師	新卒 111 (110)	102 (94)	91.9 (85.5)	—
		既卒 13 (1)	9 (1)	69.2 (100.0)	—
		合計 124 (111)	111 (95)	89.5 (85.6)	86.3 (86.6)
	助産師	新卒 12 (13)	12 (7)	100.0 (53.8)	—
		既卒 6 (—)	6 (—)	100.0 (—)	—
		合計 18 (13)	18 (7)	100.0 (53.8)	97.2 (83.1)
佐倉看専	看護師	新卒 32 (37)	32 (36)	100.0 (97.3)	—
		既卒 1 (—)	1 (—)	100.0 (—)	—
		合計 33 (37)	33 (36)	100.0 (97.3)	91.8 (89.5)

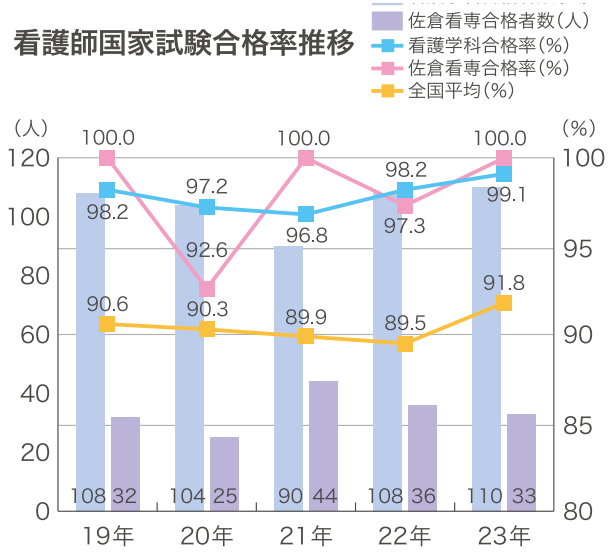
* ()内の数値は前年度

国家試験合格率の推移 (過去5年間)

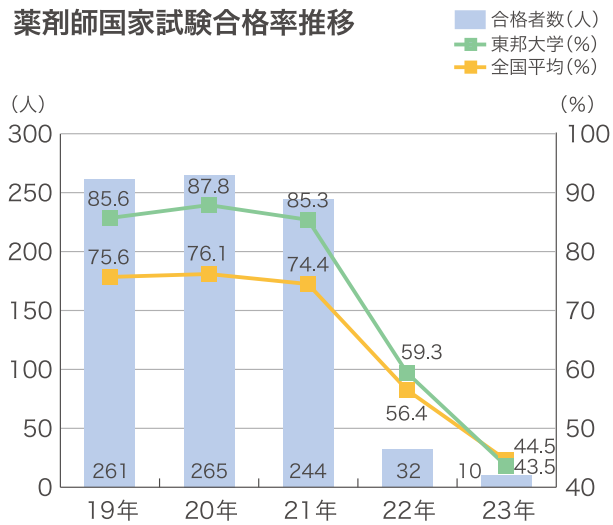
医師国家試験合格率推移



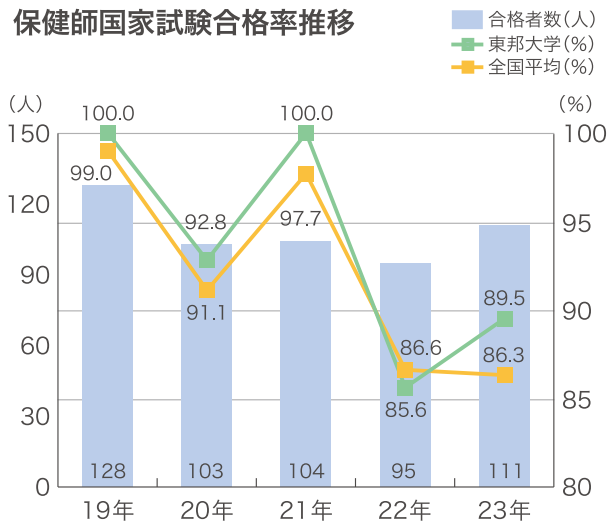
看護師国家試験合格率推移



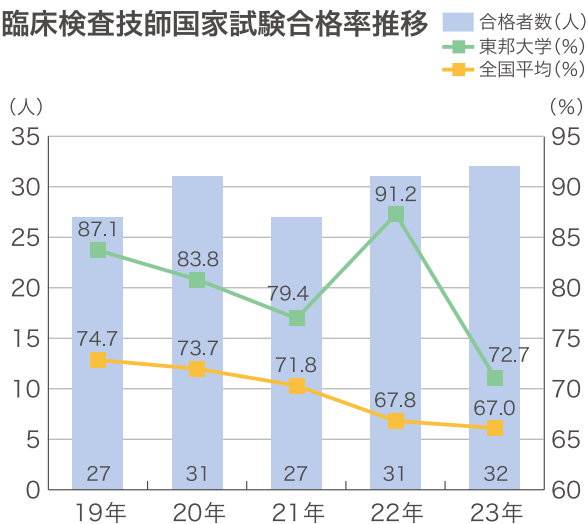
薬剤師国家試験合格率推移



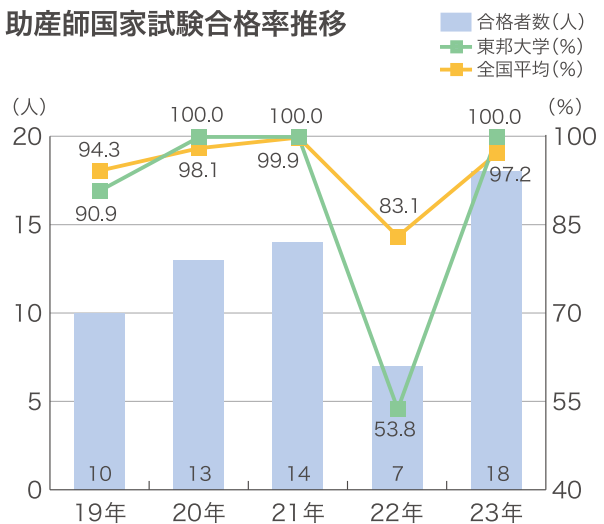
保健師国家試験合格率推移



臨床検査技師国家試験合格率推移



助産師国家試験合格率推移



⑥ 卒業後の進路状況

医学部医学科

研修病院名	人数	研修病院名	人数
<東邦大学医療センター>	< 52 >	<臨床研修病院>	< 22 >
大森病院	24	沖縄県立南部医療・こども医療センター	1
大橋病院	17	河北総合病院	1
佐倉病院	11	関東中央病院	1
		災害医療センター	1
<他大学付属病院>	< 13 >	社会保険中京病院	1
新潟大学医歯学総合病院	1	大原総合病院	1
筑波大学附属病院	1	東京厚生年金病院	1
北里大学病院	1	東京都立広尾病院	1
慶應義塾大学病院	1	北里研究所病院	2
順天堂大学医学部附属浦安病院	1	財団法人癌研究会 有明病院	1
東京医科歯科大学医学部附属病院	3	公立昭和病院	1
東京医科大学病院	1	国立病院機構東京医療センター	1
東京慈恵会医科大学附属病院	1	春日部中央総合病院	1
東京女子医科大学病院	1	諏訪赤十字病院	1
東京女子医科大学八千代医療センター	1	千葉西総合病院	1
近畿大学医学部奈良病院	1	東葛病院	1
		藤沢湘南台病院	1
<東邦大学連携病院>	< 5 >	日高病院	1
警友会けいゆう病院	1	国立病院機構横浜医療センター	1
済生会横浜市東部病院	1	聖隷横浜病院	1
牧野記念病院	2	関東労災病院	1
東京都立墨東病院	1		
		<東邦大学医療センター>	< 52 >
		<他大学付属病院>	< 13 >
		<連携病院>	< 5 >
		<臨床研修病院>	< 22 >
		<国試不合格>	< 8 >
		合 計(卒業生)	100

医学部看護学科

研修病院名	人数	研修病院名	人数
<東邦大学医療センター>	<73>	<他施設>	<34>
大森病院	43	JA長野厚生連 佐久総合病院	1
大橋病院	22	神奈川県立こども医療センター	2
佐倉病院	8	亀田総合病院	1
		がん・感染症センター都立駒込病院	1
<進学>	<5>	杏林大学医学部附属病院	2
東邦大学大学院	4	国立成育医療研究センター	1
日本赤十字社助産師学校	1	警友会けいゆう病院	1
		順天堂大学医学部附属順天堂医院	1
		順天堂大学医学部附属浦安病院	1
		昭和大学横浜市北部病院	1
		聖母病院	2
		聖マリアンナ医科大学病院	1
		総合南東北病院	1
		津田沼中央総合病院	1
		東海大学医学部附属病院	2
		東京医科大学病院	1
		東京小児療育病院	1
		東京都立大塚病院	1
		東京都立小児総合医療センター	1
		虎の門病院	1
		名古屋大学医学部附属病院	1
		西横浜国際総合病院	1
		日本赤十字社医療センター	1
		船橋二和病院	1
		三井記念病院	2
		横浜市立大学附属市民総合医療センター	1
		東京海上日動システムズ	1
		医療法人シーズ・メディカル シロノクリニック	1
		新潟大学医歯学総合病院	1
		<東邦大学>	<73>
		<進学>	<5>
		<他施設>	<34>
		<その他>	<1>
		合 計 (卒業生)	113

薬学部

平成22年度は6年制移行に伴う過渡期にあたるため卒業生はいなかった。

理学部

就職者	328人	58.2%
大学院進学者	150人	26.6%
研究生	8人	1.4%
留学・専門学校他	14人	2.5%
その他	64人	11.3%
合計	564人	100.0%

就職状況

求人状況		就職状況	
求人件数	1,215件	就職希望者	358人
		就職決定者	328人
		就職率	91.6%

		求人状況	就職状況	
規模	大企業	553件	130人	39.6%
	中企業	426件	153人	46.7%
	小企業	236件	45人	13.7%
製造	化学工業	71件	19人	5.8%
	その他	147件	26人	7.9%
医療・教育	医療・保険	129件	50人	15.2%
	教育	67件	43人	13.1%
公務	国家・地方	143件	11人	3.3%
その他(情報・サービス)		658件	179人	54.7%
所在地	京浜葉地区	959件	307人	93.6%
	東海地区	85件	2人	0.6%
	阪神地区	61件	13人	4.0%
	その他	110件	6人	1.8%

付属東邦中・高等学校

中学校 特別の支障のない限り、原則として付属東邦高等学校へ進学する。

高等学校 大部分が大学へ進学する。なお、現役での進学率は69.9%である。

大学等の合格状況

国公立	合格者数	うち現役	私立	合格者数	うち現役
東京	7	4	東邦	60	55
一橋	4	3	早稲田	123	74
東京工業	8	7	慶應	63	38
東京医科歯科	3	1	上智	55	31
千葉	36	21	ICU	1	1
筑波	5	2	東京理科	147	81
横浜国立	1	1	明治	95	61
東京農工	4	4	中央	55	32
東北	3	—	日本	40	15
その他	60	29	立教	60	36
			その他	427	271
合計	131	72	合計	1,126	695
うち医歯薬	36	15	うち医歯薬	163	113

駒場東邦中・高等学校

中学校 特別の支障のない限り、本校高等学校への進学を許可する。
 高等学校 いずれの大学の、どの学部に進学することも自由である。
 東邦大学(医・薬・理)へ進学を希望する者は、特別選考の制度がある。

大学等の合格状況

国公立	合格者数	うち現役	私立	合格者数	うち現役
東京	64	46	東邦	2	—
京都	4	2	早稲田	133	82
東工大	16	13	慶應	105	71
一橋	7	7	上智	19	10
東京医科歯科	3	3	中央	35	7
北大	1	1	明治	46	15
東北	2	1	立教	13	2
筑波	5	3	法政	4	2
千葉	4	4	慈恵医大	4	3
東京外大	2	2	東京医科	2	1
農工大	2	1	日本医科	6	3
横浜国大	5	1	日本	12	1
国際教養	2	1	順天堂	6	3
防衛医	2	1	その他	115	42
その他	11	2			
合計	130	88	合計	502	242
うち医歯薬	16	—	うち医歯薬	40	—

佐倉看護専門学校

年度		平成21年度 (平成22年3月卒業)	平成22年度 (平成23年3月卒業)
区分			
卒業生数		37	32
就職者数		36	32
就職先	付属病院	35	29
	他施設	1	3
進学者		—	—
その他		1	—

(3) 外部資金の獲得状況

① 科学研究費の年次推移

科研費申請件数

(単位:件)

	医学科		看護学科		薬学部		理学部		合計	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
平成20年度	142	18	25	6	26	5	45	16	238	45
平成21年度	190	18	29	6	23	5	54	14	296	43
平成22年度	141	27	20	7	24	8	38	30	223	72

科研費採択件数

(単位:件)

	医学科		看護学科		薬学部		理学部		合計	
	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規
平成20年度	29	11	9	3	11	6	24	8	73	28
平成21年度	35	17	10	4	11	6	34	20	90	47
平成22年度	46	19	14	7	12	4	42	12	114	42

科研費採択金額

(単位:千円)

	医学科		看護学科		薬学部		理学部		合計	
	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規
平成20年度	45,700	22,800	11,940	4,040	13,640	8,400	37,400	13,500	108,680	48,740
平成21年度	54,100	28,400	14,200	6,400	16,000	10,300	55,400	32,900	139,700	78,000
平成22年度	60,530	28,130	13,270	7,270	12,300	4,100	60,200	25,500	146,300	65,000

科研費採択率

(単位:%)

	医学科		看護学科		薬学部		理学部		合計		全国平均	
	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規	新規+継続	新規
平成20年度	18.1	7.7	29.0	12.0	35.5	23.1	39.3	17.8	25.8	11.8	38.4	20.3
平成21年度	16.8	8.9	28.6	13.8	39.3	26.1	50.0	37.0	26.5	15.9	40.3	22.5
平成22年度	27.4	13.5	51.9	35.0	37.5	16.7	61.8	31.6	38.6	18.8	44.8	22.0

※平成22年度は看護学科より研究成果公開促進費の申請があり、上記に加算(新規採択)但し、採択率(全国)には含まない

② 受託事業収入

大学

(単位:円)

	医学科	看護学科	薬学部	理学部
平成20年度	138,618,740 (49,026,291)	525,000	15,210,000	77,663,970
平成21年度	161,480,978 (72,573,573)	—	14,405,000	78,932,114
平成22年度	166,572,842 (80,895,436)	1,725,000	11,525,000	31,820,920
合計	466,672,560 (202,495,300)	2,250,000	41,140,000	188,417,004

病院

(単位:円)

	大森病院	大橋病院	佐倉病院
平成20年度	30,397,439 (30,397,439)	41,422,123 (38,164,421)	29,283,500 (28,190,500)
平成21年度	57,674,179 (57,674,179)	37,426,669 (33,999,455)	88,910,050 (80,979,758)
平成22年度	31,220,929 (31,220,929)	41,078,452 (37,301,277)	82,722,074 (82,722,074)
合計	119,292,547 (119,292,547)	119,927,244 (109,465,153)	200,915,624 (191,892,332)

(単位:円)

受託事業収入合計
333,120,772 (145,778,651)
438,828,990 (245,226,965)
366,665,217 (232,139,716)
1,138,614,979 (623,145,332)

※ () の数字は、治験収入の金額

③ 研究寄付金収入

(単位:円)

	医学科	大橋病院	看護学科	薬学部	理学部	合計
平成20年度	517,430,631	140,000	1,500,000	17,810,000	24,605,000	561,485,631
平成21年度	615,422,216	1,100,000	3,500,000	24,860,000	17,300,000	662,182,216
平成22年度	683,711,184	1,779,234	3,650,000	12,960,000	7,203,401	709,303,819
合計	1,816,564,031	3,019,234	8,650,000	55,630,000	49,108,401	1,932,971,666

④ 奨学寄付金

(単位:円)

	額田奨学基金	駒場交換留学生基金	薬学部大本奨学基金	合計
平成20年度	—	362,488	—	362,488
平成21年度	—	395,196	—	395,196
平成22年度	—	375,796	500,000	875,796
合計	—	1,133,480	500,000	1,633,480

9. 付属病院

(1) 概要

① 医療センター大森病院

<所在地>

東京都大田区大森西6-11-1
TEL 03-3762-4151

<病床数>

972床

<基本理念>

本院は、患者に優しく安全で質の高い地域医療を提供するために、良き医療人の育成をはかり、高度先進医療の研究・開発を推進します。

<基本方針>

- ・医療を求めるすべての人々に真心をもって臨みます。
- ・安全で質の高い医療を実践します。
- ・救急医療に対応します。
- ・地域の医療機関、保健機関と協力しあいます。
- ・高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
- ・医療人としての倫理に基づいて先端医療を行います。



② 医療センター大橋病院

<所在地>

東京都目黒区大橋2-17-6
TEL 03-3468-1251

<病床数>

468床

<基本理念>

優しい心、親切な心のこもった医療の実践

<基本方針>

- ・安心かつ信頼される医療をめざします。
- ・地域医療機関と連携し、24時間体制で患者様のニーズに対応します。
- ・わかりやすい診療科の編成で、わかりやすい医療を提供します。



③ 医療センター佐倉病院

<所在地>

千葉県佐倉市下志津564-1
TEL 043-462-8811

<病床数>

451床

<基本理念>

- ・質の高い医療を安全に提供する病院
- ・地域に貢献する病院
- ・人間愛を共有する病院
- ・楽しく明るくチャレンジする病院
- ・良き医療人を育成する病院



④ 羽田空港クリニック

<所在地>

東京都大田区羽田空港3-4-2
第2旅客ターミナルビル 1階到着ロビー中央
TEL 03-6428-8121

<基本理念>

東京国際空港国内線旅客ターミナルをご利用いただくお客様のみならず、首都圏の顔である当ターミナルで働く約3万人の方々に対して、優しく安全で質の高い医療の実践をめざします。

<基本方針>

- ・急性患者に対応します。
- ・慢性患者の管理をします。
- ・東邦大学医療センター大森病院および地域医療機関と連携し、当クリニックを利用される方々のニーズに対応した医療サービスを提供します。
- ・災害医療活動に協力します。

<患者数>

平成21年度 8,966人(1日平均 24.6人)
平成22年度 9,686人(1日平均 26.5人)



⑤ 羽田空港国際線クリニック

<所在地>

東京都大田区羽田空港2-6-5
国際線旅客ターミナル 1階エントランスプラザ
TEL 03-5708-8011

<基本理念>

東京国際空港国際線旅客ターミナルをご利用される方々に質の高い医療を実践し、また当ターミナルで働いている方々に対しては質の高い医療の実践に加えて健康管理にも取り組みます。

<基本方針>

- ・急性患者(感染性疾患含む)に対応します。
- ・慢性患者の管理をします。
- ・東邦大学医療センター大森病院および地域医療機関と連携し、当クリニックを利用される方々のニーズに対応した医療サービスを提供します。
- ・健康診断、健康管理に取り組みます。
- ・災害医療活動に協力します。

<患者数>

平成22年度 2,703人(1日平均 16.7人)



(2) 診療科別入院・外来患者数

① 医療センター大森病院

入院患者数

(単位:人)

科別	区分	平成21年度(365日)		平成22年度(365日)	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
総診内科		8,799	24.1	9,528	26.1
総診外科		6,066	16.6	5,527	15.1
消化器内科		35,528	97.3	34,377	94.2
消化器外科		22,488	61.6	24,308	66.6
呼吸器内科		19,460	53.3	20,465	56.1
呼吸器外科		7,352	20.1	5,867	16.1
循環器内科		14,918	40.9	18,122	49.6
循環器心外		4,291	11.8	5,361	14.7
糖代内センター		5,599	15.3	6,643	18.2
腎センター		14,885	40.8	15,536	42.6
神経内科		11,679	32.0	10,646	29.2
脳神経外科		11,909	32.6	13,341	36.6
リウマチ膠原病		5,210	14.3	5,384	14.8
精神神経科		11,373	31.2	10,862	29.8
小児科		10,997	30.1	9,766	26.8
小児外科		1,774	4.9	1,538	4.2
周産期センター		6,184	16.9	8,073	22.1
血液・腫瘍科		11,640	31.9	12,404	34.0
乳腺・内分泌外科		2,724	7.5	3,098	8.5
心療内科		1,666	4.6	1,974	5.4
形成外科		2,676	7.3	3,755	10.3
整形外科		32,296	88.5	31,625	86.6
産婦人科		24,693	67.7	25,363	69.5
皮膚科		3,211	8.8	3,563	9.8
泌尿器科		9,437	25.9	10,091	27.6
眼科		8,500	23.3	8,215	22.5
耳鼻咽喉科		5,191	14.2	4,896	13.4
放射線科		—	—	—	—
麻酔科		—	—	—	—
口腔外科		1,094	3.0	592	1.6
救急センター		4,447	12.2	4,372	12.0
合計		306,087	838.6	315,292	863.8

※小児科には、循環小児科1,430人含む。泌尿科には、泌尿器リプロ363人含む

医療センター大森病院

外来患者数

(単位:人)

科別	区分	平成21年度(280日)		平成22年度(281日)	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
総診内科		41,394	147.8	41,006	145.9
総診外科		7,274	26.0	7,052	25.1
消化器内科		34,016	121.5	35,294	125.6
消化器外科		20,329	72.6	20,892	74.3
呼吸器内科		24,124	86.2	25,466	90.6
呼吸器外科		5,121	18.3	4,904	17.5
循環器内科		46,228	165.1	45,381	161.5
循環器心外		4,631	16.5	4,132	14.7
糖代内センター		32,883	117.4	33,951	120.8
腎センター		18,060	64.5	18,677	66.5
神経内科		14,075	50.3	14,216	50.6
脳神経外科		12,370	44.2	12,407	44.2
リウマチ膠原病		10,720	38.3	12,244	43.6
精神神経科		41,076	146.7	41,925	149.2
小児科		48,513	173.3	43,335	154.2
小児外科		1,894	6.8	2,011	7.2
血液・腫瘍科		9,807	35.0	11,428	40.7
乳腺・内分泌外科		13,006	46.5	14,759	52.5
心療内科		17,801	63.6	16,951	60.3
形成外科		4,979	17.8	4,873	17.3
整形外科		54,670	195.3	55,285	196.7
産婦人科		57,351	204.8	59,015	210.0
皮膚科		36,197	129.3	34,077	121.3
泌尿器科		31,182	111.4	32,101	114.2
眼科		38,590	137.8	37,232	132.5
耳鼻咽喉科		21,327	76.2	21,670	77.1
放射線科		6,651	23.8	6,055	21.5
麻酔科		2,623	9.4	2,978	10.6
東洋医学科		7,727	27.6	7,635	27.2
口腔外科		10,613	37.9	11,104	39.5
感染症科		359	1.3	394	1.4
内視鏡		312	1.1	263	0.9
緩和ケア科		—	—	107	0.4
循環器小児科		(3,444)	—	(3,093)	(11.0)
婦人科リプロ		(12,693)	—	(13,533)	(48.2)
泌尿器リプロ		(3,326)	—	(3,271)	(11.6)
合計		675,903	2,413.9	678,820	2,415.7

※ ()は再掲

※小児科には、大田区小児救急2,349人と(循環器小児3,093人)含む。整形外科には、リウマチ膠原病整形639人含む

※22年度より緩和ケア科を掲上した

② 医療センター大橋病院

入院患者数

(単位:人)

科別	区分	平成21年度(365日)		平成22年度(365日)	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
総合内科		—	—	—	—
消化器内科		21,626	59.2	20,980	57.5
呼吸器内科		8,295	22.7	9,608	26.3
循環器科		19,204	52.6	20,003	54.8
心臓外科		8,148	22.3	9,736	26.7
糖尿病内科		1,554	4.3	2,615	7.2
腎臓内科		3,315	9.1	3,286	9.0
神経内科		7,364	20.2	8,213	22.5
脳神経外科		11,125	30.5	10,200	27.9
リウマチ膠原病痛風		4,025	11.0	3,408	9.3
精神神経科		—	—	—	—
小児科		5,418	14.8	4,780	13.1
第三外科		23,941	65.6	19,462	53.3
形成外科		1,861	5.1	1,551	4.2
美容外科		—	—	—	—
整形外科		13,762	37.7	14,398	39.4
産婦人科		8,054	22.1	6,355	17.4
皮膚科		3,228	8.8	2,516	6.9
泌尿器科		3,453	9.5	5,009	13.7
眼科		8,116	22.2	7,202	19.7
耳鼻咽喉科		2,742	7.5	3,236	8.9
放射線科		—	—	—	—
麻酔科		—	—	—	—
ICU		(1,608)	(4.4)	(1,479)	(4.1)
合計		155,231	425.3	152,558	418.0

※()は再掲

医療センター大橋病院

外来患者数

(単位:人)

科別	区分	平成21年度(280日)		平成22年度(281日)	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
総合内科		9,586	34.2	8,123	28.9
消化器内科		22,890	81.8	22,653	80.6
呼吸器内科		8,959	32.0	10,078	35.9
循環器内科		38,991	139.3	37,906	134.9
心臓外科		4,272	15.3	5,096	18.1
糖尿病内科		8,346	29.8	10,428	37.1
腎臓内科		7,908	28.2	8,752	31.1
神経内科		14,097	50.3	14,333	51.0
脳神経外科		14,233	50.8	14,740	52.5
リウマチ膠原病痛風		8,703	31.1	9,086	32.3
精神神経科		14,020	50.1	15,648	55.7
小児科		23,815	85.1	21,005	74.8
第三外科		23,031	82.3	22,888	81.5
乳癌センター		347	1.2	255	0.9
形成外科		4,438	15.9	5,714	20.3
美容外科		136	0.5	149	0.5
整形外科		28,064	100.2	25,629	91.2
リハビリテーション科		6,719	24.0	5,610	20.0
産婦人科		15,847	56.6	16,055	57.1
皮膚科		28,716	102.6	28,095	100.0
泌尿器科		16,264	58.1	17,880	63.6
眼科		32,838	117.3	31,791	113.1
耳鼻咽喉科		22,257	79.5	23,791	84.7
放射線科		1,976	7.1	2,322	8.3
麻酔科		1,686	6.0	1,468	5.2
総合健康センター		322	1.2	321	1.1
女性専用(心診療)		316	1.1	285	1.0
女性専用(外科)		261	0.9	157	0.6
女性専用(婦人)		204	0.7	—	—
女性専用(皮膚)		157	0.6	302	1.1
女性専用(泌尿)		193	0.7	192	0.7
漢方外来		625	2.2	729	2.6
合計		360,217	1,286.5	361,481	1,286.4

③ 医療センター佐倉病院

入院患者数

(単位:人)

科別	区分	平成21年度(365日)		平成22年度(365日)	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
総合内科		895	2.5	675	1.8
呼吸器内科		20,079	55.0	18,977	52.0
神経内科		4,023	11.0	4,710	12.9
外科		4,222	11.6	4,427	12.1
消化器内科		17,858	48.9	20,403	55.9
消化器外科		13,135	36.0	13,456	36.9
循環器センター		12,128	33.2	12,382	33.9
糖内代センター		7,796	21.4	6,948	19.0
脳神経外科		6,438	17.6	5,880	16.1
精神神経科		80	0.2	284	0.8
小児科		5,803	15.9	5,530	15.2
形成外科		3,545	9.7	3,878	10.6
整形外科		5,743	15.7	13,359	36.6
産婦人科		12,027	33.0	12,674	34.7
皮膚科		2,366	6.5	2,401	6.6
泌尿器科		2,165	5.9	7,404	20.3
眼科		7,070	19.4	8,232	22.6
耳鼻咽喉科		5,953	16.3	6,616	18.1
麻酔科		—	—	—	—
放射線科		—	—	10	0.03
リプロダクションセンター		152	0.4	76	0.2
救急センター		(1,450)	(4)	(1,777)	(5)
未熟児		(2,076)	(6)	(2,314)	(6)
合計		131,478	360.2	148,322	406.4

※()は再掲

※リプロダクションセンターは婦人科で76人

※放射線科を追加した

※救急センターは救急病棟に入室された延患者数とし再掲とした

※未熟児はNICUに入室された延患者数とし再掲とした

医療センター佐倉病院

外来患者数

(単位:人)

科別	区分	平成21年度(280日)		平成22年度(281日)	
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
総合内科		15,499	55.4	15,036	53.5
呼吸器内科		19,596	70.0	22,811	81.2
神経内科		7,132	25.5	9,388	33.4
外科		9,480	33.9	9,899	35.2
消化器内科		33,780	120.6	36,850	131.1
消化器外科		9,542	34.1	9,920	35.3
循環器センター		34,647	123.7	36,701	130.6
糖内代センター		40,342	144.1	42,727	152.1
脳神経外科		11,328	40.5	10,300	36.7
精神神経科		29,062	103.8	29,631	105.4
小児科		15,752	56.3	15,944	56.7
形成外科		8,263	29.5	8,704	31.0
整形外科		19,713	70.4	23,870	84.9
産婦人科		22,624	80.8	22,272	79.3
皮膚科		20,197	72.1	20,969	74.6
泌尿器科		16,459	58.8	20,337	72.4
眼科		30,276	108.1	33,563	119.4
耳鼻咽喉科		22,306	79.7	22,848	81.3
放射線科		669	2.4	613	2.2
麻酔科		3,017	10.8	2,820	10.04
リプロダクションセンター		5,239	18.7	5,503	19.6
漢方科		854	3.0	1,142	4.0
合計		375,777	1,342.1	401,848	1,430.1

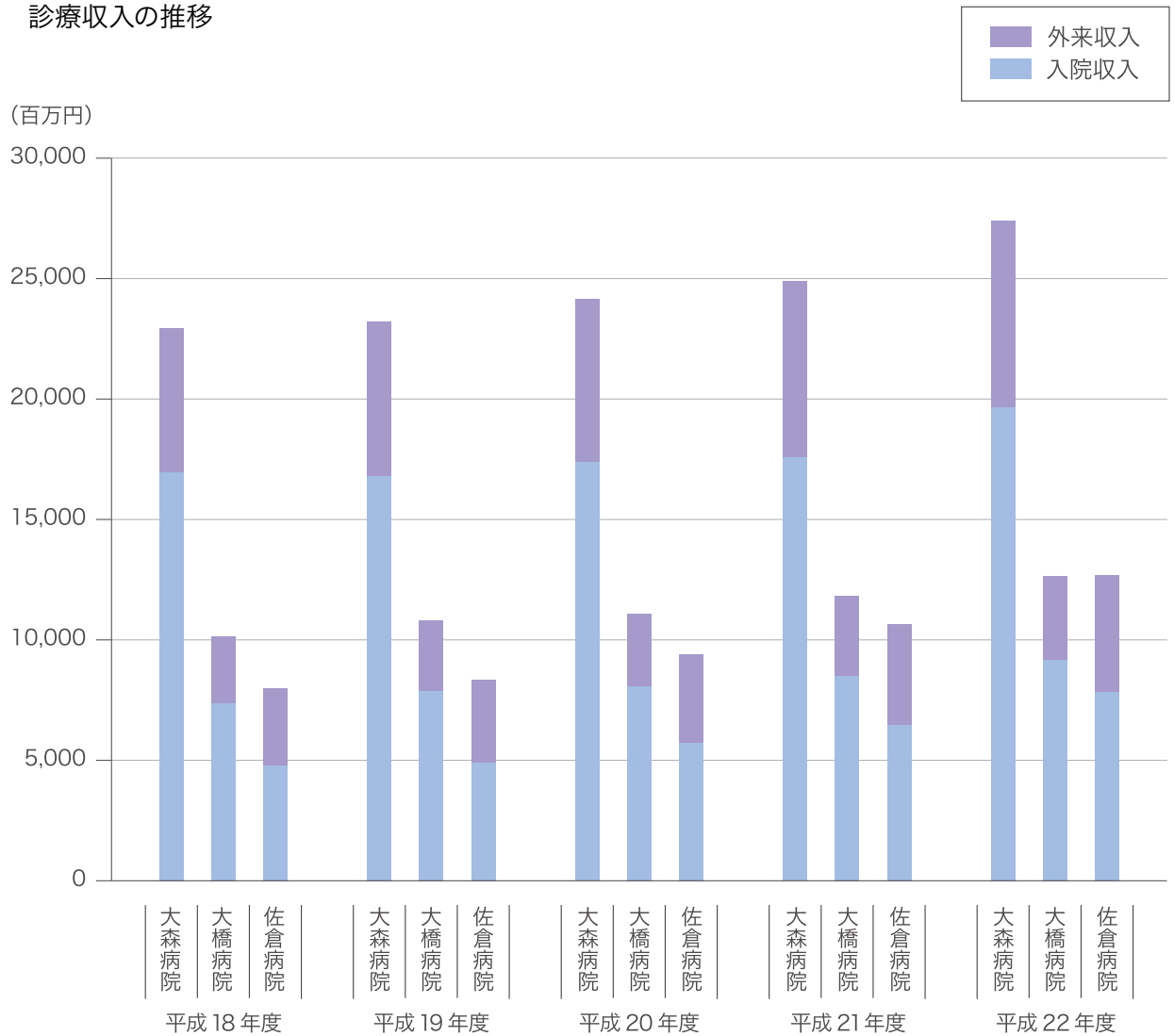
※リプロダクションセンターは、婦人科5,033人、泌尿器科470人

(3) 診療収入

(単位:百万円)

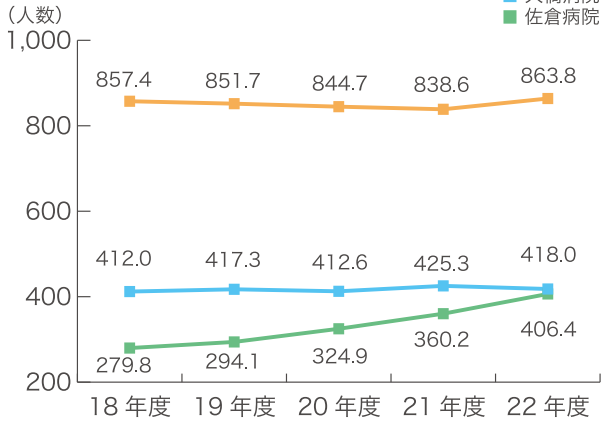
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
大森病院	診療収入	22,930	23,193	24,162	24,897	27,398
	入院収入	16,949	16,801	17,364	17,562	19,669
	外来収入	5,981	6,392	6,798	7,335	7,729
大橋病院	診療収入	10,153	10,803	11,092	11,797	12,625
	入院収入	7,377	7,884	8,081	8,509	9,179
	外来収入	2,776	2,919	3,011	3,288	3,446
佐倉病院	診療収入	7,974	8,344	9,412	10,658	12,676
	入院収入	4,790	4,894	5,715	6,480	7,849
	外来収入	3,184	3,450	3,697	4,178	4,827

診療収入の推移

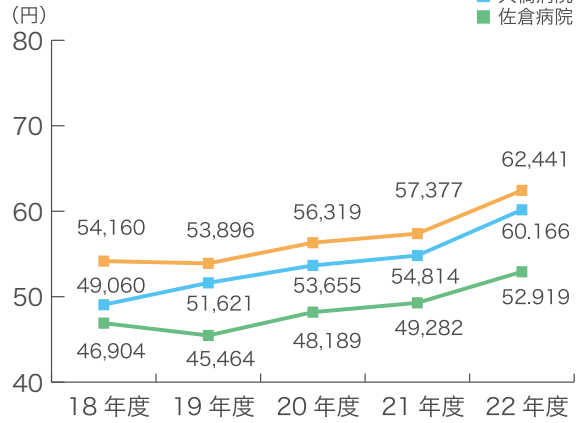


(4) 過去5年間の推移

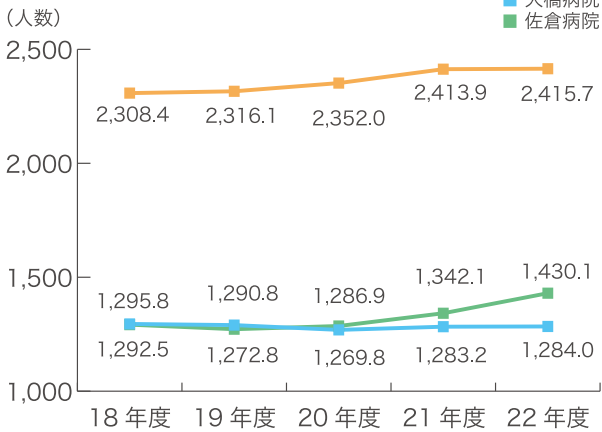
1日当入院患者数



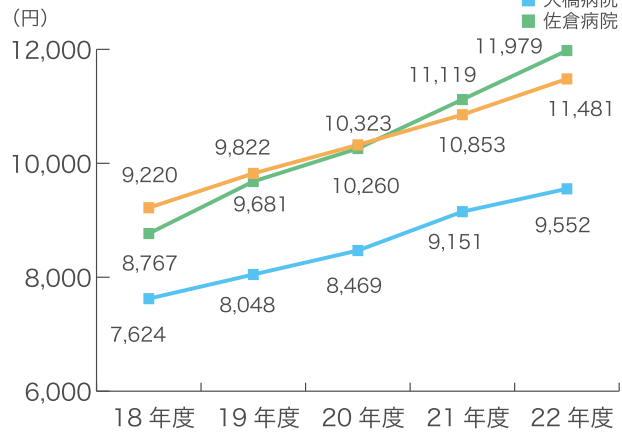
1人1日当入院診療収入



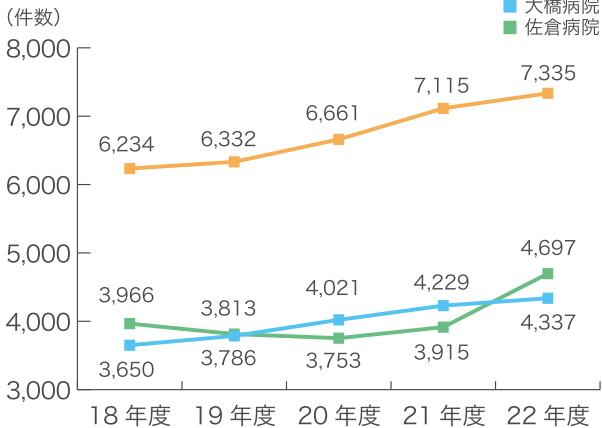
1日当外来患者数



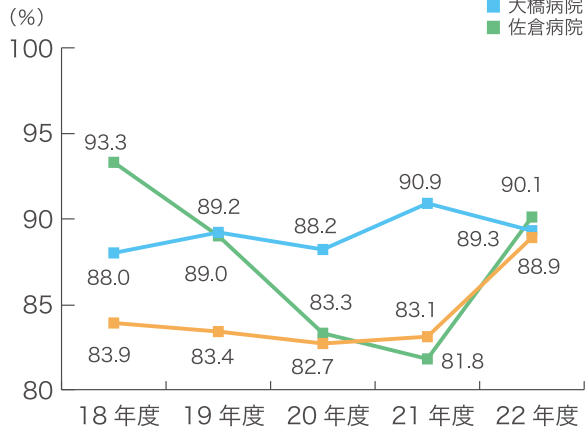
1人1日当外来診療収入



手術件数



病床利用率





II 事業の概要

教育・医療を取り巻く環境が厳しいなか、今年度末に発生した東日本大震災は、地震と津波さらに放射性物質の流出と広範囲かつ深刻な大災害となった。本法人は、教育機関・医療機関を通して、社会に持続性をもって奉仕する組織であり、直ちに付属3病院の患者、学生・生徒およびその保護者、全ての教職員、並びに同窓会組織の安否確認と被害状況の情報収集に努めた。また、義援金のための募金活動、被害者へのお見舞金、学生の学納金減免等の対策を講じるとともに、付属3病院においては、被災地からの患者の受け入れ、被災地への医療チームの派遣など、救助および支援活動を行った。今回の災害に対し本法人として何ができるか、今後も引き続き検討し実行していく所存である。また、本法人の経営環境についても、昨今の受験生1人あたりの受験校数の減少、学費支弁能力を失う家庭の増加、来院患者数の減少などの社会的な傾向に加え、従前より重点的に取り組んできた各種災害対策施策の早期実現や危機管理体制のさらなる充実など、対応すべき課題が明確となった。

このような状況からも、引き続き帰属収支差額の黒字幅拡大により、強固な財政基盤の確立をめざすとともに、施設・設備の充実を図り、産学連携活動等の推進による研究の活性化と質の向上、研究成果の社会への還元を図り、顧客目線に立った事業経営をなお一層強化推進していく。

平成22年度はこのような認識に基づき事業計画を作成し、以下の事業を行った。

1. 教育

(1) 大学における入学志願者および優秀な学生の確保

少子化の進展に伴い、「大学全入時代」の到来が間近に迫っているなか、平成22年度は私立大学の5割近くの大学が定員割れとなる状況となったが、本学は、平成23年度入試において4学部全てが前年度の志願者数を上回り、入学志願者総数は10,621名(前年度比+3.4%)と、平成18年度以降で最高の人数を記録した。これは入学志願者の増加を目的として組織された入試広報改革委員会を中心に、全学的に入試広報に資源の集中投下を実施したこと、ブランディング効果が浸透してきた結果に加え、各学部の積極的・継続的な入試広報活動の結果が現れたものと分析する。また、広く小学生から高校生までを対象とした、科学への興味を抱かせる企画、即ち「小学生夏の医学校」「薬学教室」「理科教室」「ひらめき☆ときめきサイエンス」「たのしい科学の広場」等の未来の東邦人を囲い込むプロジェクトについても引き続き積極的な取り組みが行われた。

(2) 国家試験合格率の高位安定化

平成23年の国家試験合格率は、医師89.8%(全国平均89.3%)、看護師は看護学科99.1%・佐倉看護専門学校100%(同91.8%)、保健師89.5%(同86.3%)、助産師100%(同97.2%)、薬剤師43.5%(同44.5%)、臨床検査技師72.7%(同67.0%)となり、薬剤師以外の国家試験において全国平均を上回る結果を残すことができた(平成22年、平成23年実施の薬剤師国家試験は最後の4年生が卒業後、6年制完成までの狭間となるため、対象は一部の留年生等である)。

引き続き、各学部・学科ともに、学生一人ひとりにきめ細かい丁寧な指導を行うことで、合格率の高位安定化をめざしていく。

(3) 特色ある教育への取り組み

平成20年度に採択された「文部科学省大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)」が平成22年度で終了することから、これを学内で維持・発展するための組織として平成22年10月に東邦大学共通教育推進委員会が設置され、3学部(看護学部設置後は4学部)共通の教育プログラムである「生命倫理シンポジウム」「チーム医療演習」「実用医療英語」の企画・運営を行う他、FD(ファカルティ・ディベロップメント)等の学部間連携についても推進し、将来的には東邦大学共通教育推進センターへの発展・継承も視野に活動を行った。

また、各学部においても特色ある教育への取り組みが積極的に推進されている。

医学部では、平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援事業(テーマB)」に採択された「医学部テュートリアル早期学習における学生屋根瓦システムの構築」において、学生がテュータを経験することで、教える側・教わる側双方の知識・技能・態度の三領域のスパイラルアップに大きく貢献している。

薬学部は、モデル・コアカリキュラムに準拠したカリキュラム構成のなかで、カナダ・アルバータ大学や、中国・瀋陽薬科大学等の海外学術交流協定締結校との学生交流短期プログラムを活発に行い、国際交流の面で特色を発揮している。

理学部では、教育開発センターが初年次教育の検討に始まり、リメディアル教育の充実や高大連携の推進で着実に実績を積んでいる。また、厳しい就職環境に対応し、習志野キャリアセンターとも連携して低学年次からのキャリア教育の充実にも注力している。

(4) 教学環境の整備

平成23年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災では、諸施設で建物の被害が軽微ではあったが多数発生した。直ちに安全確認を行い、被害状況の把握および修繕を早期に実施し、今後も施設・設備の安全性の確保に努める。

【医学部】

医学部では、4月に自治会室、国家試験対策室等のリニューアル工事を行った。また、夏休み期間中に柔剣道場床等の修繕工事を実施した。平成23年3月には実習室等の照明改善工事を実施し、照度の確保とともに省エネ器材を導入した。

看護学科では、夏休み期間中に、本館外壁補修およびアスクレピオンの改修工事等を実施した。また、平成23年度にかけて、図書室の照度の改善および椅子の更新等を実施している。

大学院の教学環境の整備については、平成23年度入試の状況を考慮して、OA機器、研究室等を整備した。

【薬学部・理学部】

体育館建設に関しては、北側グラウンドのスポーツゾーン化、体育館の建設場所、部室1号館の移転新設およびグラウンドの人工芝化が決定し、平成23年度より再配置・再整備を行う。

薬学部では、501講義室のAV機器を充実させ、講義に使用している。E館(旧研究館)のトイレ改修工事を行い、1～4階までの改修工事が終了した。

理学部では、1号館の耐震補強調査を行った。また、教養1号館3階に自修室を設置し、4階トイレの改修工事を行った。

【付属東邦中・高等学校】

建物の外壁および床の改修等の工事を行うとともに、地震で一部破損した体育館天井などの構内施設を修理、校内施設の安全点検を実施した。また、メール連絡網を本格稼働させ、緊急時の家庭連絡を充実させた。さらに、平成22年9月から、グラウンド人工芝化工事の平成23年度着工に向けた準備作業を開始した。

【駒場東邦中・高等学校】

情報教室のパソコンのハードおよびソフトの更新を行い、操作環境を改善し、教育効果の向上に努めた。また、デジタル放送に対応するために、分割教室、研究室、職員室に設置してあるTVの更新を、夏休み期間を利用して実施した。

【佐倉看護専門学校】

地方からの優秀な学生を確保するため、学生のニーズにあった寮のアメニティ向上をめざし、学生寮の改修を行った。また、教学環境整備のために教室スクリーンの移設を実施した。

(5) 医学部機構改革の点検に基づいた実質的な改革の推進【医学部】

医学部機構検討委員会において、これまで、臨床系教員の職制の一元化および任期制を前提とした教員人事考課制度導入について、検討が継続され、その結果、既に具体策が打ち出されるまでに至っている。また、これと併せて、講座・研究室統合構想についても基本的統合計画案が打ち出されている。

(6) 6年制薬学教育【薬学部】

5年次生を対象に病院・薬局それぞれ2.5ヵ月の長期実務実習を実施した。年間を3期に分け、さらに、全学年を3つのグループに分け、薬局実習、病院実習、卒業研究のローテーションで実施した。各期の開始前に実習施設の指導薬剤師、教員、学生の3者懇談を実施し、実習期間中に担当教員が2回の訪問指導を実施した。4年次生には前年同様共用試験を実施した。

(7) 理学部教育開発センターの充実と就職支援の強化【理学部】

学生の学力や就学意欲が多様化するなかで、大学教育の質の保証が必要とされている。教育開発センターでは多様な学生に対応できる支援体制について検討を進めた。FDにおいては、学生の全方位的な支援という立場から、現状の認識と実践例の共有を進めた。キャリア教育の充実をめざし、キャリアセンターと共同で平成23年度入学生を対象とする導入的な教育の実施に向けて具体的な準備を進めた。

キャリアセンターでは、就職ガイダンスや企業合同説明会、卒業生との懇談会等の従来行事に加え、多彩な新規支援行事を大幅に追加実施した。特に、薬・理両学部インターンシップに関する指導の強化、未内定者への積極的な働きかけと個別指導に最重点を置いて実施した。また、産学連携センターと協働体制のもとTOHOアライアンスを設立し、200数社もの企業の参加を得た。具体的な活動としては、日常的に学生と企業の方が接することのできる場として、平成23年4月からキャリアラウンジをオープンさせる。今後も企業とのパイプをより太いものとし、学生にとってより多くの就職先の確保をめざす。

(8) 看護学部開設への改組準備【看護学科】

平成23年4月の看護学部開設に向け、平成22年4月末文部科学省高等教育局大学設置室に届出を提出、6月末受理された。また、保健師・助産師・看護師学校としての指定を受けるため、文部科学省高等教育局医学教育課へ承認申請書を7月末に提出、11月上旬に承認変更の認可を受けた。さらに、平成23年4月施行に合わせ、看護学部教授会規程等諸規定を順次整備した。

(9) 東邦大学国際交流センターの開設

東邦大学国際交流センターは、平成22年10月に、海外の大学等との学術交流や、教員・学生交流の企画・推進等を通じて国際貢献を図ることを目的に設置された。これまでも学部単位で留学生や研究者の派遣・受入れ等の国際交流を推進してきたが、今後は大学として組織・制度を整備して一層の推進強化をめざす。

設置以降の活動としては、第7回4大学ジョイントセミナーへの参加者募集告知、外国の大学等との交流協定締結に関する内規制定、国際交流センターホームページ・英文大学案内作成準備等の他、留学生支援に向けての今後の施策検討が行われた。引き続き、入学志願者確保の観点からも積極的に活動して行く方針である。

(10) 付属東邦中・高等学校の教育

中高一貫の特色ある教育推進のために、組織をあげて授業研究に取り組むとともに、関東・関西各地の進学校に多くの教員が訪問取材を実施した。学力増進に向けては、中学夏期補習および高校冬期休業中の補習を新たに実施した。これに加え、東邦大学他の協力を得て、学問体験講座Ⅰ～Ⅲ期を実施した。また、完全6ヵ年一貫教育の推進に向けて、12月より集中的に審議・答申を行った。さらに、校外に学校関係者評価委員を委嘱し、年度内の本校の活動について、次年度に生かす課題や問題点を洗い出しながら、客観的な評価を得た。広報活動については、ホームページにおけるタイムリーな情報配信を心がけると同時に、入試広報でのより広い広報活動を実施し、動画配信等も開始した。また、教員による公開講座を実施し、地域を含め校外の多くの人に対して情報伝達を行った。

(11) 駒場東邦中・高等学校の教育

次世代のリーダーを養成するという本校の教育理念を実現するため、数学、英語を中心に少人数教育の実施、中学と高校の枠を越えた効率的なカリキュラムの実践、教員の意欲を助成するような人事等に積極的に取り組むと同時に、家庭での学習習慣の確立に向けた指導を行った。また、学校説明会の内容の充実に工夫を加えるとともに、学外の広報の場にも参加した。

(12) 佐倉看護専門学校の教育と学生確保

本校の教育目標実現に向け、より質の高い学生確保をめざし、千葉県内、東北地区の27校の高校訪問を行った。また、推薦指定校の見直しを行い本年度は19校を指定した。さらに北海道地区でより多くの志願者確保をめざし、函館・札幌・旭川で開催された学校説明会に初参加し、41校の高校教員に説明を行った。さらに、札幌と仙台で入学試験を実施し、地方から受験しやすい環境を整えた。その結果、北海道・東北地区からの受験者数は前年比15名増の23名、入学者数は4名増の9名と増加した。

2. 研究

(1) 研究の活性化と外部資金の獲得

【大学】

平成21年7月に設置された教育・研究支援センターが、研究の活性化と外部資金の獲得という推進面と、研究費の不正使用防止等の管理面の双方に亘り中心となって活動している。

推進面では、平成19年度以降に獲得した5つの補助事業の推進・管理運営を担当し、これに加え平成22年度は新たに採択された「周産期医療に関わる専門的スタッフの養成事業」の推進・管理運営を開始した。また、平成22年度より補助金総額を増額した東邦大学共同研究費補助金には、過去最高の14件の応募があり学部を超えた研究活動活性化の進展が確認できた。

平成22年1月に設立された産学連携センターとの協働も着実に進展しており、学外研究者等との共同研究の一層の活性化が見込まれる。

管理面では、科研費の交付内定通知後であれば資金交付前に支払い執行が可能な手続きを制定し、研究者の円滑な研究活動推進のサポートに努めた。

【医学部】

医学科では、東邦大学大学院医学研究科先端医科学研究センター規程により研究に専従しうる専任教員を採用し研究の活性化と大学院の充実を確立した。看護学科では、研究費獲得のため全教員の科学研究費申請の啓発活動を実施した。また、東邦大学看護学術交流会を学会として設置、本学の看護連携、教育・研究の発表の場として充実・発展に努めた。

【薬学部】

平成18年度から始まり最終年を迎えたオープンリサーチセンター整備事業は、前年同様2回の公開研究発表会を実施、平成22年10月の発表会にはノーベル物理学賞受賞者である本学特別客員教授リヒルト・エルンスト博士にも御参加いただき、平成23年3月の発表会では各研究グループ代表者による総括発表を行った。今後、これを継承する大型プロジェクトの導入をめざし、学内調整を実施した。

【理学部】

ハitek・リサーチセンター整備事業は平成21年度に終了したが、複合物性研究センターはそのまま存続させ、月1回の研究会議ならびに不定期で学外の研究者による講演会を開催した。平成22年12月には平成21年度に引き続き、複合物性研究センター主催の国際シンポジウムを開催し、平成23年度にも私立大学戦略的研究基盤形成事業にも複合物性研究センターとして申請した。また、独立行政法人科学技術振興機構の理数系教員養成拠点構築事業が前年度より採択(継続)となっており、地域の教育委員会と連携しコア・サイエンス・ティーチャーの養成に取り組んだ(平成22年度契約額:10,648千円)。

(2) 大学院の充実

【医学研究科】

看護学の教育・研究のさらなる向上を目的とし、大学院医学研究科看護学専攻博士課程を開講、平成23年3月末に研究計画進捗状況報告会を開催した。また、高度周産期医療に対応する助産師教育を行うため大学院医学研究科看護学専攻修士課程に実践助産学課程(助産師コース)を開設すべく、文科省医学教育課に助産師学校の申請を行い、平成22年11月上旬に助産師学校の指定を受けた。大学院看護学専攻修士課程の入学定員を12名から15名に変更、総定員24名から30名とし、9月に文部科学省大学設置室に届出を行い、11月に承認された。

優秀な学生確保のため修士課程の学納金について減額改正、平成23年度入学生から施行することが理事会で承認された。

【薬学研究科】

平成22年4月1日開設の薬学研究科薬科学専攻修士課程(入学定員10名、収容定員20名)の1期生12名を受け入れた。年度末には医療薬学専攻博士前期課程の幕をおろした。平成24年4月に開設予定の4年制博士課程(入学定員5名、収容定員20名)の設置準備委員会を平成23年2月に開催し、3月には理事会の承認を得た。

【理学研究科】

環境科学専攻修士課程の完成に合わせて環境科学専攻博士後期課程の設置届出を行い、積極的に広報活動を展開した結果、環境科学専攻博士後期課程として平成23年度入学者3名を確保した。平成22年度は理学研究科全体として他大学からの受験はなかったが、博士前期課程で社会人2名、外国人4名が、後期課程では社会人1名が入学した。

3. 医療

(1) 医療センター大森病院

平成22年度は、病院機能の質の点検および向上を図るため、病院機能評価 Ver.6を受審し、3月の中間報告ではすばらしい成績を取っており、平成23年5月に正式な結果報告および認証を受ける。また、東日本大震災発生に伴い、「震災対策室」を設置し、諸問題の解決に院内一丸となって取り組んだ。

経営基盤の確立と強化においては、手術室の手術枡を増設するとともに、HCU(8床)の運用を開始した。検診事業の強化を図るため、検診センターを設置し、ドイツ系企業健診を受け入れ、外国人受診のノウハウ獲得にも努めた。さらに、経済産業省のプロジェクト(いわゆる医療ツーリズム)に協力し、医療滞在ビザ発給1号の患者を受け入れた。

患者サービスにおいては、総合相談部を立ち上げ、さらなる患者サービスの向上に取り組むとともに、自動再来受付機による保険証確認を開始した。

危機管理においては、防災訓練(テロ対応訓練を含む)、乳幼児連れ去り事例訓練等を実施し、また、東京都感染症外来協力医療機関として、強毒性の新型インフルエンザの流行を想定した初の地域連携訓練を実施した。

地域(病診)連携の強化においては、地域完結医療を構築・推進するため、地域の医療機関を対象に、密接な顔の見える連携を図ることを目的とした第5回医療連携学術セミナーを開催した。さらに、地域の中核病院として、受診して良かったと言われる病院に近づくべく、全職員がチーム医療に取り組んできた。

(2) 医療センター大橋病院

平成22年度から導入したDPC(包括点数評価)については、クリニカルパスを活用し適正なコーディングおよび平均在院日数の短縮に努めスムーズな移行を行う事が出来た。また、高難度手術の増加や検査体制の強化を図り質の高い医療の提供にも努めた。その結果、診療単価が向上し、医療収入も大きく伸びた。そして、胆のうセンターやフットケア外来の開設、HCUの増設など患者満足度の高い医療の提供にも取り組んだ。医療連携では学術セミナーを開催、今年は3回目で過去最高の285人が参加し、充実した内容となっており、定着しつつある。また、新規開業の医療機関や療養型病院への訪問、医師会との懇親などを積極的に行い、地域医療機関との関係強化に努めている。

新病院計画では、患者や医療従事者が利用しやすい病院をめざし、病院内で9つの部門別検討委員会を立上げ、病棟の単位や個室数、手術室の数や運用方法など具体的な検討に着手した。この新病院の事業計画には多額の投資が必要となり、継続的に投資に見合う収益を得られるような体制を構築したい。

(3) 医療センター佐倉病院

佐倉病院は開院以来、佐倉市のみならず印旛市郡地域の医療の中核を担う病院として質の高い医療の提供をめざして活動しており、平成23年9月には開院20周年を迎える。この節目の年を前にした平成22年度は、医療の質の向上と経営基盤の強化をめざして、化学療法室のベッド増設や最新の3テスラMRIの導入、地域医師との連携のための組織「東邦佐倉会」の創設などに取り組んだ。また、平成22年9月には病院機能評価のVer.6の認定を取得、7月からはDPC対象病院となるとともに、駐車場を新たに138台分増設し合計1,027台の駐車を可能とするなど、大学病院としての基本的な機能の整備にも積極的に取り組んできた。その結果、平成22年度の外来、入院患者数、手術件数等は従来に比べて大幅に増加し、診療規模において佐倉病院開設以来最大の飛躍の年となった。

平成23年度も引き続き診療機能の強化、とりわけ救急センターの拡充、地域連携の強化に取り組み、地域医療に貢献する病院をめざしていく。

(4) 羽田空港クリニック

開設6年目に入った羽田空港国内線クリニックは、新所長が就任し、生活習慣病などの慢性疾患診療に一層力を入れ、年間約9,700人(昨年比108%)の外来診療を行なっている。平成22年10月の国内線ターミナルビル完成により、クリニックがビルの中央部に位置することとなった。クリニックの拡張・リニューアルも実現し、国際線ターミナルビルで診療を開始したクリニックとともに羽田空港職員と旅客の健康と安全・安心を守る存在として一層積極的に活動し、本法人の広報活動の一翼を担う。

(5) 羽田空港国際線クリニックの開設

平成22年10月に新たに開設された羽田空港国際線クリニックは、電子カルテ、レントゲン撮影装置を導入し、診療体制の円滑化と充実を図っている。さらに、ターミナルビル職員の健康管理基地として健康診断を積極的に実施するとともに職員対象の健康講座を、国内線クリニック、大森病院の協力の下で開催する。さらに、一般旅客が羽田空港を安心して利用できるよう、関係部署と協調し一層の患者サービス向上を図り、本法人のプレゼンスを高める。

(6) 3付属病院の看護師等確保の活動

平成22年度は地元での求人が増加し、学生の地元志向が強まっているなかでの募集活動となったが、大橋病院において確保すべき数名の枠を残したものの、245名の看護職員を採用することができた。また、退職後アンケート調査から職場環境・処遇の改善について検討し、離職防止の取り組みを進め、退職率を10.9%(昨年比▲1.6%)にとどめることができた。

(7) 看護キャリア支援センターの開設

3病院の看護の質を向上させるため、平成22年度に3病院、看護学科、佐倉看護専門学校が共同で、看護キャリア支援センターを開設した。中堅看護師を対象とし、指導者・管理者育成に焦点を絞り、運営は運営委員会、研修委員会が実施している。初年度の活動内容として8コース計47回の研修を開催し、延べ528人(平均経験年数12.7年)が参加した。その結果、参加者の約8割が良いと回答しており、高い評価を得ている。また、新人教育計画の見直し、部署のIV(静脈注射)、フィジカル研修の強化等の成果が現場に還元された。看護幹部研修としては、教育機関と3病院看護部の幹部が今後の本学の看護のビジョンを討議し、相互交流・連携の基盤を創った。次年度も継続して実施していく。

4. 管理運営

(1) 財政基盤の強化

平成22年度は帰属収支差額888百万円の黒字確保により、将来に備えた自己資金を一段と積上げることが目標としたが、これを大きく上回り、前年度実績(1,411百万円)の約3.6倍となる5,109百万円の黒字を達成できた。

主要因としては、前年度改善をみた病院収支が加速度的に向上し、大きく寄与したことが挙げられる。これは、診療報酬改定要因もさることながら、法人全体の財政基盤強化のため、病院収支の黒字基調を維持・発展させることを最重要課題に据え、法人と医学部、病院が情報を共有のうえ、一体となって診療体制の強化や経営改善に取り組んできたことによる効果が大い。「病院運営戦略会議」での活発な議論を通じ、めざすべき方向を明確にし問題点を着実に解決するとともに、理事長自ら3病院診療部長会や医局長会議に出席する等の継続的な努力が実を結んだものと考えられる。

また、自己資金の着実な積上げに加え、借入金の約定返済進捗を通じてバランスシートが強化され、主要な財務指標の改善が進んだ。帰属収支差額比率は2.0%から6.6%と本法人が長年めざしてきた3%を大きく超過、人件費比率も49.6%から47.3%に改善するとともに、自己資金構成比率が54.4%から57.5%へ向上する等、経営の健全性や法人全体の体力向上を示す数値となっている。

(2) 大橋病院新病院建設計画の推進

炭山理事長を委員長とした大橋病院新病院建設委員会を中心に、平成27年度完成・開院をめざして、新病院建設用地の取得交渉、各関係行政との協議等を重ねた。新病院建設計画の諸条件を整理し、作業を一段と加速させていく。

(3) 耐震補強計画の早期実行

東日本大震災では、幸いにも本法人における深刻な人的被害の発生は皆無だったが、諸施設で建物の被害が軽微ではあったが多数発生した。耐震補強については、予てより本法人の緊急課題であり、検討および対策を重ねてきたが、これを機に現在計画している建物建て替えなどの耐震補強施策を最優先課題として速やかに実行していく所存である。

(4) ブランディング・プロジェクトの推進およびホームページの充実

主な取り組みとして、羽田空港内大型映像メディア(FV)を利用した広告展開を実施し、平成22年4月より本法人の30秒CMを放送するとともに、10月からは3病院15名の医師が出演する健康情報番組「健康エアポート」を制作し、放送を始めた。また、4月より幕張地区へのラッピングバス1台(京成バス)を追加、10月には羽田空港国際線クリニックの開業に合わせ、羽田地区に初となるラッピングバス1台(京急バス)を導入したことに加え、京急梅屋敷駅の上り電車の高架化に伴い、8月より大森病院3号館の外壁に「東邦大学」の大型LED看板を設置する等、広告施策の強化を図った。さらに、一般広報活動では、プレスリリースの強化を図り、平成22年度のメディア掲載は538件(前年比+57件)となり、プレスリリース配信した84本(前年比+6本)の内134件(前年比+30件)がメディアに掲載・放映され、順調に本法人の認知度向上が図られた。

ホームページについては、本法人各施設トップページへのアクセス数が平成22年度累計で延べ1,739万件(大学893万件、病院527万件、両中高・看専319万件)となった。学校選択のための重要な情報手段であることは言うまでもなく、病院を選ぶ人の7割近くがホームページを利用していると言われていたことから、さらなる充実を図るべく、アクセス状況をチェックし、利用者の利便性を考えたコンテンツの作成等を進めていく。

(5) 「東邦大学広報」の内容の一新および配布範囲の拡大

法人が主体的に推進する事業の周知徹底のための手段として、平成22年10月より、「東邦大学広報」の内容を一新するとともに配布範囲を拡大した。これにより、学校法人東邦大学関係者の一体感の醸成を図るとともに、ステークホルダーとの関係促進をめざしている。

平成23年度は、さらに各同窓会を始めとするオール東邦のタイムリーな情報を収集し、教職員のみならず同窓生等に対しても広く本法人の情報を伝達していく。

(6) 産学連携プロジェクトの推進

産学連携センターは、平成22年度に、知的財産管理事業、産学連携推進事業、産学戦略分析・企画事業を確立した。学内で創生された知的財産の相談窓口をセンターに一元化することで、特許取得4件、特許出願4件を成立させた。産学連携推進業務では、寄附講座や共同研究等の側面支援を行っており、共同研究としては、ヒヤリングを20件行い4件の契約締結という実績を得ている。産学連携催事事業では、大学間連携、習志野キャリアセンターの側面支援を行っている。産学戦略分析・企画事業では、私立大学経常費補助金の分析を行い、大学院教育プログラム案を策定し、平成23年4月より大学院にて講座を開講予定である。

(7) エコ・省エネ活動の推進

省エネ意識の向上に向けては、従来より全学的に取り組んでいるクールビズ・ウォームビス等の施策に加え、平成22年4月に法人本部および各所属施設管財事務職員を中心とした省エネルギー推進委員会を発足させ、委員会の初年度は各教職員への周知および啓蒙活動を行った。

一方、省エネ設備への改修では、老朽化した佐倉病院のターボ冷凍機の更新など費用対効果の大きいものから順に高効率な設備への更新を行った。また、教学環境では省エネ型照明器具への更新や重点的に10ヵ所のトイレを省エネ型のトイレへと整備リフォームを行った。

(8) 額田記念東邦大学資料室のオープン

創設者の顕彰と大学の歩みを伝える場として、平成22年6月9日に医学部本館1階に「額田記念東邦大学資料室」を開設した。資料室には、常設展として歴史資料25点、写真40枚程度をパネル8枚、展示ケース4台に展示している。平成23年3月末までに約4,450人の来場者があり、展示をご覧いただいた学内外の方々から好評価を得ている。大学の同窓会代表によって構成される運営諮問委員会の委員の方々のご意見を賜りながら今後の展示内容等を検討していく。

(9) 創立90周年記念事業の推進

平成22年9月から創立90周年記念事業準備委員会を本格的に立ち上げ、既に委員会を3回開催し、記念事業等の具体的な検討を進めている。同準備委員会から提案された90周年記念寄付金募集の実施については、平成23年3月の理事会・評議員会において承認されたが、東日本大震災後のタイミングを考慮して、当面の募金活動等は休止中である。

(10) 株式会社東邦キャンパスサービス

本法人が保有する資源を積極的に活用し、経費の内部留保を図り、本法人の教育、研究、医療を支援することを目的とし、事業であげた利益は、本法人へ還元している。

第10期(平成21年9月1日～平成22年8月31日)決算は、売上高4,141百万円、経常利益14百万円を計上した。

特に新規事業として、薬品費のうち治療薬の価格交渉を実施し、1月に策定した3病院の決算予想額に対して、437百万円(大森病院226百万円、大橋病院65百万円、佐倉病院146百万円)の収支改善に寄与することが出来た。

今後も本法人との連携をさらに強化し、各所属のニーズに合ったサービスを提供し、本法人の発展に貢献する。



額田記念東邦大学資料室

Ⅲ 財務の概要

1. 消費収支決算の概要

平成22年度決算は、帰属収入が77,037百万円、消費支出が71,927百万円で、一般企業の当期利益に相当する帰属収支差額は5,109百万円の黒字となり、本学創設史上最高の額となった。また、前年度決算に比べると黒字幅は3,698百万円拡大した。

基本金は第1号基本金に2,844百万円を組入れたが、組入額は予算を650百万円上回った。

基本金組入れ後の消費収入は74,192百万円で、これから消費支出を差引いた当年度消費収支差額は2,265百万円の収入超過となり、昭和62年度以来23年ぶりの黒字を記録した。

帰属収入は前年度決算比では5,954百万円、8.4%の増収であり、予算(補正後)との対比では、2,997百万円の予算超過であった。

事業収入を除く全てが予算を上回ったが、帰属収入に占める割合が大きい医療収入が予算を大きく上回ったのが予算超過の主な要因である。

医療収入については、各病院とも前年度実績を上回る収入を上げ、当年度予算に対して1,842百万円超過することができた。診療報酬の改定により診療単価が上がったことや、各病院の経営改善努力等が実を結んだ。

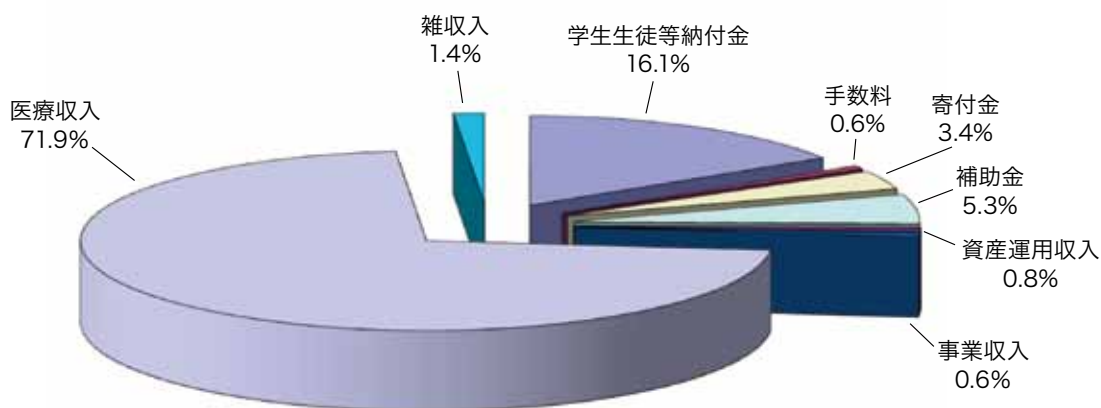
寄付金は、学生・生徒のご父母や後援会、および企業等からの寄付金が当初の見込み以上に増えたため782百万円、補助金は、多様な補助金の獲得に努めた結果7百万円、それぞれ予算を上回った。

一方、消費支出は、前年度決算比で2,255百万円、3.2%増加した。管理経費がほぼ前年度並みだった以外は、人件費が1,201百万円、教育研究経費が323百万円、医療材料費が950百万円、前年度実績を上回った。なお、補正後の予算対比では各項目とも予算を下回り、合計では2,424百万円下回った。

なお、上述の当年度消費収支差額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は67,219百万円で、基本金組入高は129,384百万円となるため、年度末の正味財産(自己資金)は62,164百万円となった。帰属収支差額の黒字5,109百万円と同額が自己資金として積みあがった。

以上の結果、本法人の財務状況を示す財務指標の殆どが前年度比で改善された。帰属収支差額比率は2.0%から6.6%に、人件費比率は49.6%から47.3%へと、また自己資金構成比率は54.4%から57.5%へと夫々改善されている。

帰属収入(77,037百万円)の構成比



消費収入の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	帰属収入に対する構成比	差異
学生生徒等納付金	12,177	12,398	16.1%	△ 221
手数料	435	483	0.6%	△ 48
寄付金	1,804	2,586	3.4%	△ 782
補助金	4,037	4,044	5.3%	△ 7
資産運用収入	592	619	0.8%	△ 27
資産売却差額	0	1	0.0%	△ 1
事業収入	507	429	0.6%	78
医療収入	53,536	55,378	71.9%	△ 1,842
雑収入	948	1,097	1.4%	△ 149
帰属収入合計(ア)	74,040	77,037	100.0%	△ 2,997
基本金組入額合計	△ 2,194	△ 2,844	—	650
消費収入の部合計(イ)	71,845	74,192	—	△ 2,347

学生・生徒のご父母や後援会等から多額のご寄付をいただいた。また備品等の現物資産については45百万円相当のご寄付をいただいた。

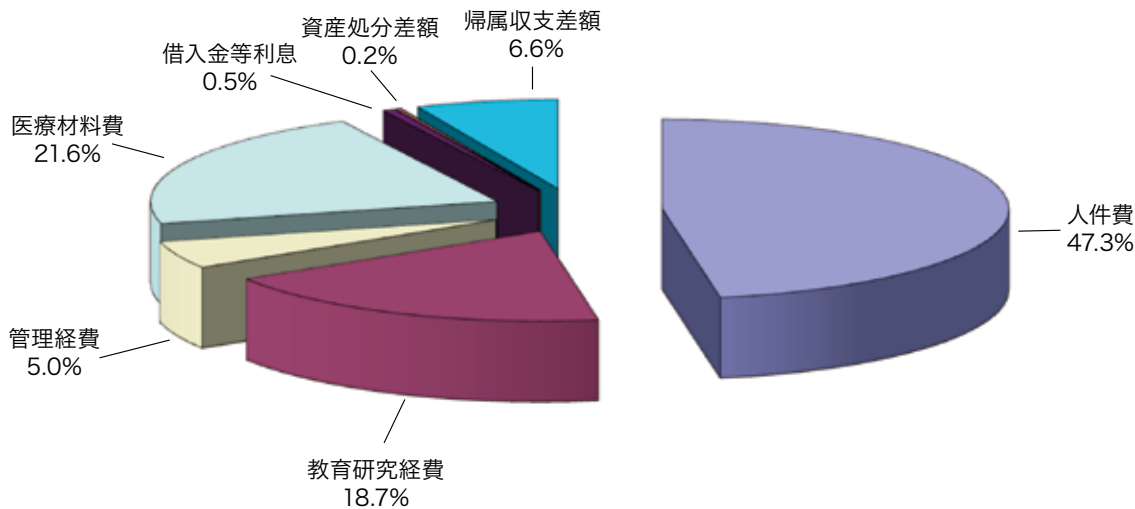
医療収入はベッド稼働率の向上や診療報酬の改定等により対前年度決算比で11.3%の増収となり、予算を達成することができた。

帰属収入とは、その年度の学校法人の負債とならない収入をいう。従って借入金等はこの収入に含まない。

基本金とは学校運営に必要な資産(土地、建物、備品等)のうち自己資金で調達したものの取得額、あるいは奨学基金等の資産の額をいい、当期は約28億円組入れた。

※百万円未満切捨て
※予算額は補正後予算

帰属収入(77,037百万円)に対する消費支出(71,927百万円)の構成比



消費支出の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	帰属収入に対する構成比	差異
人件費	36,791	36,460	47.3%	331
教育研究経費	15,257	14,441	18.7%	816
管理経費	4,258	3,821	5.0%	437
医療材料費	17,064	16,624	21.6%	440
借入金等利息	422	412	0.5%	10
資産処分差額	203	147	0.2%	56
徴収不能額	0	3	0.0%	△ 3
徴収不能引当金繰入額	56	15	0.0%	41
予備費	296	—	—	296
消費支出の部合計(ウ)	74,351	71,927	93.4%	2,424
帰属収支差額(ア-ウ)	△ 311	5,109	6.6%	△ 5,420
消費収支差額(イ-ウ)	△ 2,506	2,265	—	△ 4,771

帰属収入の伸びが人件費の伸びを上回ったため、人件費比率は前年度比で2.3ポイント低下した。目安とされる50%を前年度に引き続き下回った。

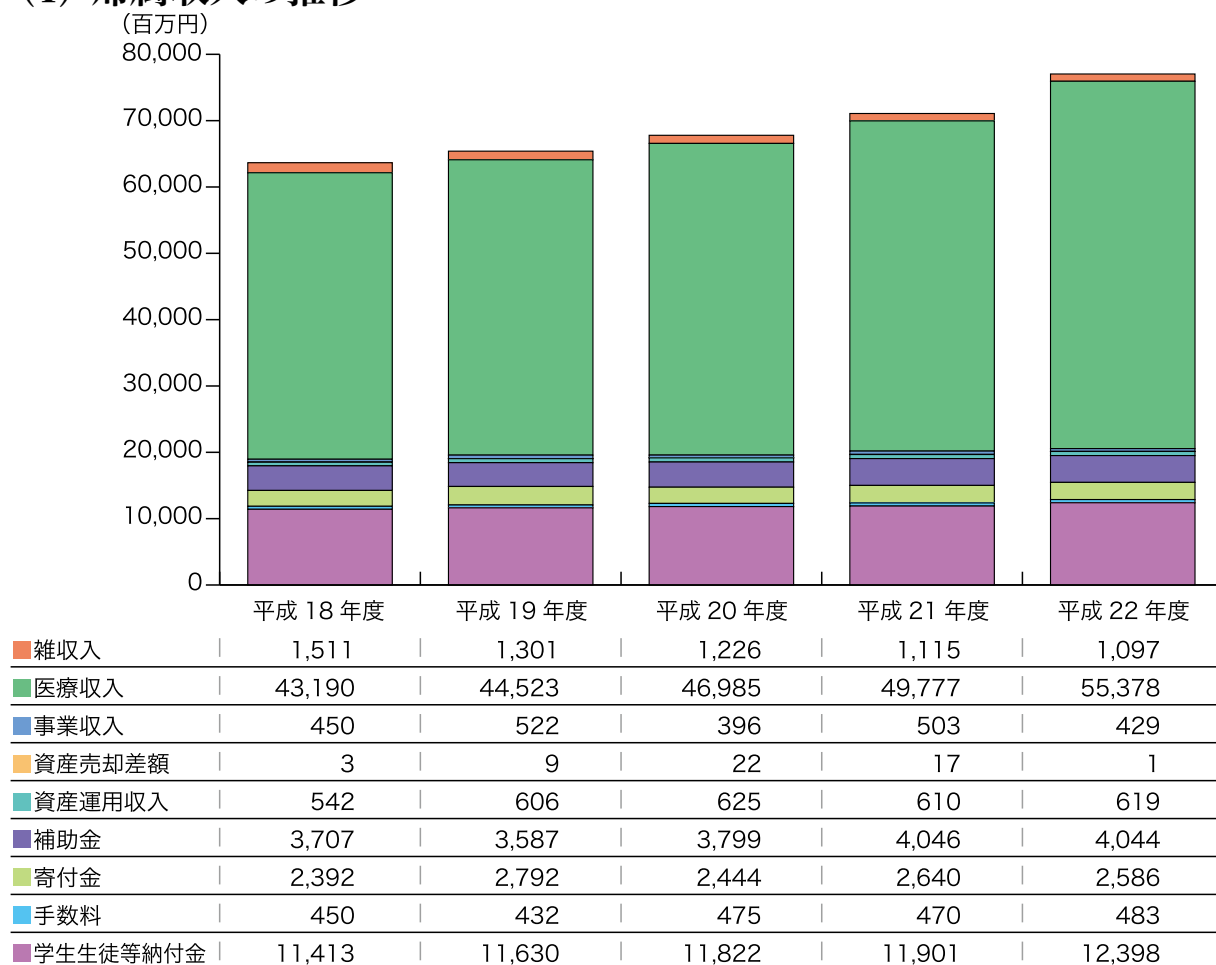
帰属収入に占める医療材料費の比率は医療収入の大幅増収により前年度比0.5ポイント低下した。

一般企業等の当期利益にあたるもので、予算および前年度決算を大きく上回った。

※百万円未満切捨て
※予算額は補正後予算

2. 消費収支決算の推移

(1) 帰属収入の推移



※百万円未満切捨て

ここ5年間の帰属収入の推移を示した。学生生徒等納付金収入は漸増し、補助金収入は回復傾向にある。平成22年度はベッド稼働率の向上、診療報酬の改定や経営改善努力による患者数、手術件数の増加等により、帰属収入の7割以上を占める医療収入は全体で11.3%の伸びを示し、帰属収入の前年度比8.4%増収に寄与した。

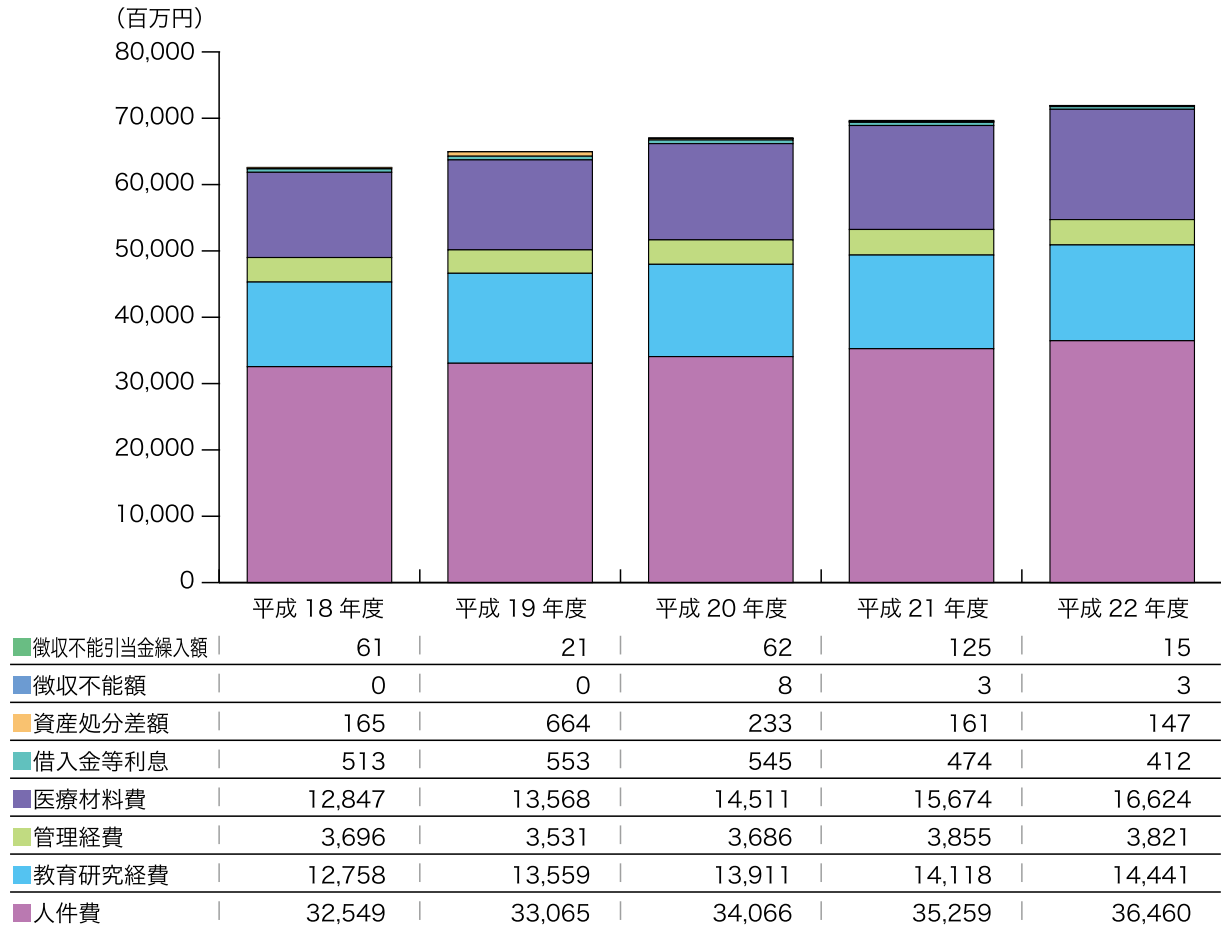
消費収入の部

(単位：百万円)

科目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	5年間累計
学生生徒等納付金	11,413	11,630	11,822	11,901	12,398	59,164
手数料	450	432	475	470	483	2,310
寄付金	2,392	2,792	2,444	2,640	2,586	12,854
補助金	3,707	3,587	3,799	4,046	4,044	19,183
資産運用収入	542	606	625	610	619	3,002
資産売却差額	3	9	22	17	1	52
事業収入	450	522	396	503	429	2,300
医療収入	43,190	44,523	46,985	49,777	55,378	239,853
雑収入	1,511	1,301	1,226	1,115	1,097	6,250
帰属収入合計(ア)	63,663	65,405	67,798	71,083	77,037	344,986
基本金組入額合計	△ 1,977	△ 2,450	△ 3,391	△ 3,323	△ 2,844	△ 13,985
消費収入の部合計(イ)	61,686	62,954	64,406	67,760	74,192	330,998

※百万円未満切捨て

(2) 消費支出の推移



※百万円未満切捨て

ここ5年間の消費支出の推移を示した。帰属収入の増加に伴い消費支出全体のボリュームも増大してきている。本法人の課題である帰属収入に対する人件費比率は、本年度は47.3%と前年度より2.3ポイント好転したが、人件費比率抑制の努力は継続する。また、帰属収入に対する消費支出の割合は93.4%となり、前年度より4.6ポイント低下し、当面の目標としている97.0%を大きく下回ることができた。尚、診療活動の活発化に伴い、本年度も医療収入、医療材料費何れも伸びているが、医療材料費は前年度から950百万円、6.1%の増加を示している。

消費支出の部

(単位:百万円)

科目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	5年間累計
人件費	32,549	33,065	34,066	35,259	36,460	171,399
教育研究経費	12,758	13,559	13,911	14,118	14,441	68,787
管理経費	3,696	3,531	3,686	3,855	3,821	18,589
医療材料費	12,847	13,568	14,511	15,674	16,624	73,224
借入金等利息	513	553	545	474	412	2,497
資産処分差額	165	664	233	161	147	1,370
徴収不能額	0	0	8	3	3	14
徴収不能引当金繰入額	61	21	62	125	15	284
消費支出の部合計(ウ)	62,593	64,962	67,026	69,672	71,927	336,180
帰属収支差額(ア-ウ)	1,069	442	772	1,411	5,109	8,803
消費収支差額(イ-ウ)	△ 907	△ 2,007	△ 2,619	△ 1,911	2,265	△ 5,179

人件費をはじめ各経費は漸増している。

診療収入の伸びに伴い増加したが、対診療収入比率では3病院とも低下している。

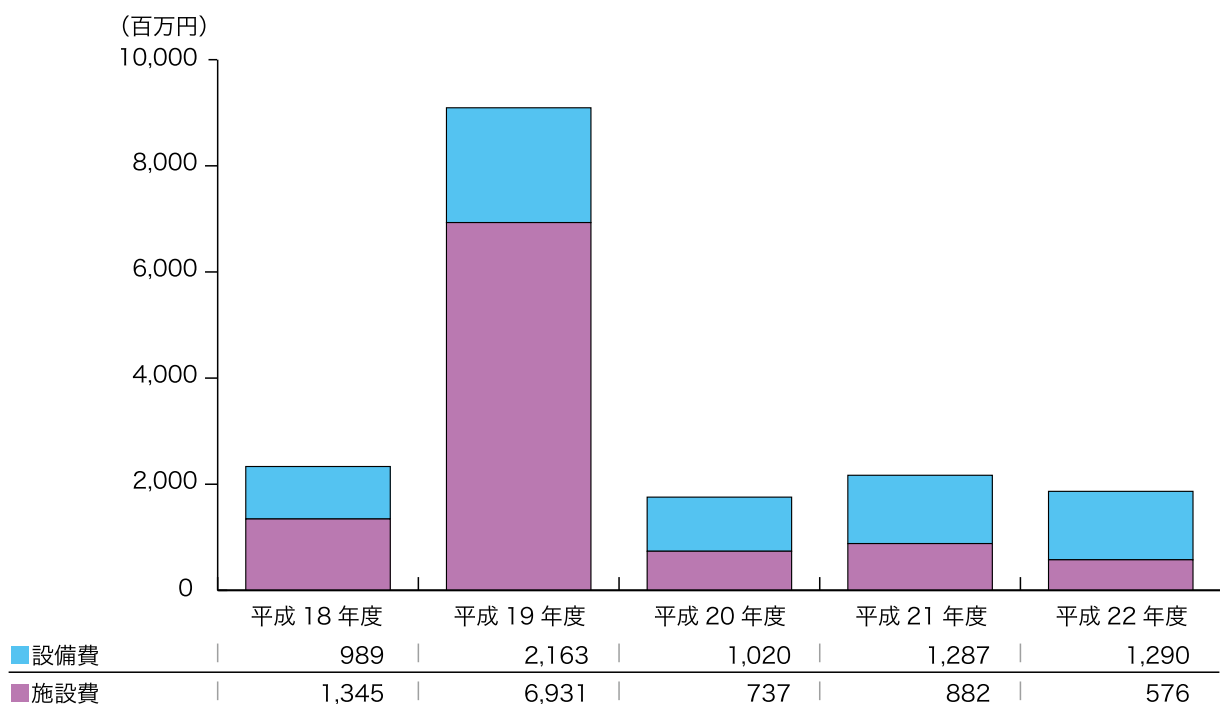
借入残高の減少に伴い金利負担も軽減している。

※百万円未満切捨て

※△は消費支出超過を示す

3. 設備投資等

本法人は、これまで教学環境の一層の充実と、3病院等における高度先進医療の推進に向けたインフラ整備に全力を挙げてきたが、自己資金の蓄積による経営体質の強化のため平成20年度、21年度は大規模投資を凍結した。平成22年度は凍結を解除したが、投資額は過年度と同規模水準となった。キャッシュベースの施設費、設備費は合計1,866百万円で、前年度比では303百万円の小幅減額となっている。



※百万円未満切捨て

(単位:百万円)

(参考)	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
施設・設備費計	2,334	9,094	1,757	2,169	1,866
減価償却額	3,999	3,906	4,042	4,020	3,633

※百万円未満切捨て

ここ5年間の施設・設備関係支出の推移を示している。大型設備投資を行った平成19年度以外は減価償却額の範囲内にとどまっている。

4. キャッシュフロー計算書

キャッシュフロー計算書は、学校法人の諸活動をA.教育研究活動、B.施設等整備活動、C.財務活動に区分し、それぞれの活動区分に対応するキャッシュフローと、事業活動のキャッシュフロー(A+B)および繰越支払資金の増減額(A+B+C=当年度キャッシュフロー)の状況を明らかにしたものである。

22年度の教育研究活動は8,765百万円の収入超過で、施設等整備活動の支出超過2,340百万円に充当された後の事業活動のキャッシュフローは6,425百万円の収入超過となった。この収入超過額は、財務活動による支出超過613百万円に充当され、繰越支払資金が5,811百万円増加することとなった。以上の結果、次年度繰越支払資金は同額増加した19,132百万円となっている。

(単位:円)

事業活動のキャッシュフロー	
A 教育研究活動のキャッシュフロー	
学生生徒等納付金収入	12,398,000,600
手数料収入	483,086,360
一般寄付金収入	2,432,163,039
日本私立学校振興・共済事業団補助金収入	2,248,323,000
地方公共団体補助金収入	1,461,456,681
日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金収	2,500,000
資産運用収入	619,203,161
事業収入	55,807,480,843
雑収入	1,096,155,702
前受金収入	4,805,889,000
前期末前受金	△ 4,725,611,500
小計	76,628,646,886
人件費支出	36,160,215,874
教育研究経費支出	27,950,346,685
管理経費支出	3,339,344,381
借入金等利息支出	412,885,678
小計	67,862,792,618
教育研究活動のキャッシュフロー	8,765,854,268
B 施設等整備活動のキャッシュフロー	
特別寄付金収入	108,743,117
その他国庫補助金収入	332,662,657
不動産売却収入	0
前期末未収入金収入	8,856,680,931
期末未収入金	△ 9,688,615,217
小計	△ 390,528,512
施設関係支出	576,583,880
設備関係支出	1,290,185,985
手形債務支払支出	0
前期末未払金支払支出	5,823,699,149
期末未払金	△ 5,744,821,746
前払金支払支出	130,734,260
前期末前払金	△ 126,660,349
小計	1,949,721,179
施設等整備活動のキャッシュフロー	△ 2,340,249,691
事業活動のキャッシュフロー	6,425,604,577
C 財務活動のキャッシュフロー	
有価証券売却収入	5,200,000,000
その他資産売却収入	10,100,000,000
借入金等収入	4,100,000,000
引当特定預金(資産)からの繰入収入	0
その他収入	822,371,834
その他収入調整勘定	0
小計	20,222,371,834
借入金等返済支出	6,142,870,000
資産運用支出	13,798,194,345
その他支払支出	989,640,188
その他支出調整勘定	△ 94,394,194
小計	20,836,310,339
財務活動のキャッシュフロー	△ 613,938,505
繰越支払資金の増減額	5,811,666,072
前年度繰越支払資金	13,320,832,384
次年度繰越支払資金	19,132,498,456

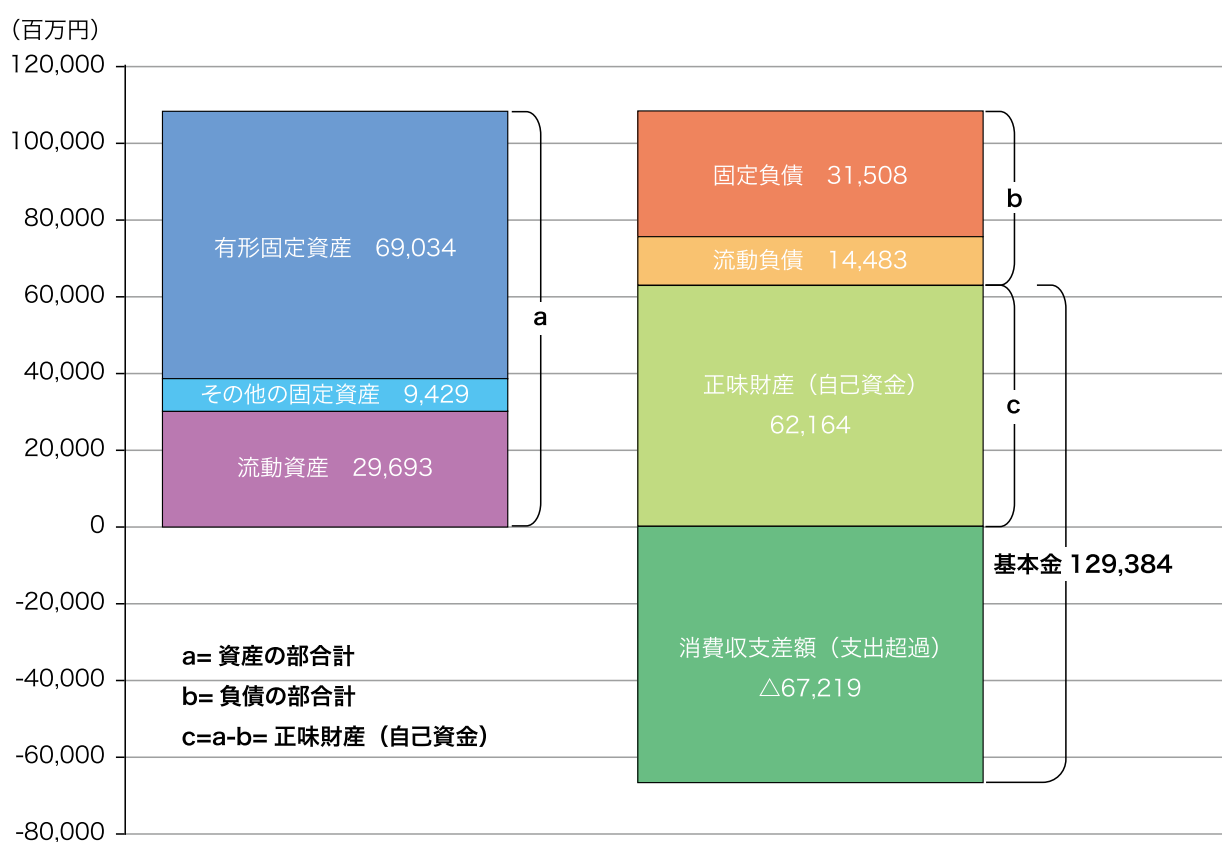
5. 貸借対照表

(1) 貸借対照表

平成22年度末の総資産は108,157百万円で、前年度に比べ3,309百万円増加した。負債は45,992百万円で前年度比1,801百万円減少した。そのうち、借入金は約定弁済のみで新規の設備借入がなかったため前年度比2,042百万円残高が減少した。

総資産から負債を差引いた正味財産(自己資金)は62,164百万円となり、前年度から5,109百万円増加した。

平成22年度貸借対照表構成図



(2) 貸借対照表の推移

(単位:百万円)

科目	18年度末	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	5年間増減
固定資産	78,590	83,034	81,053	79,727	78,463	△ 1,767
うち有形固定資産	70,755	75,332	72,861	70,909	69,034	△ 2,936
有価証券	3,420	2,719	3,119	4,618	5,418	2,099
指定金銭信託	3,000	3,000	2,600	1,200	500	△ 2,500
流動資産	24,525	23,858	23,946	25,120	29,693	7,099
うち現金預金	16,050	14,760	14,112	13,320	19,132	4,613
未収入金	7,844	7,880	8,483	8,860	9,672	2,399
有価証券	398	1,000	1,085	2,699	600	201
資産の部合計	103,116	106,892	105,000	104,848	108,157	5,333
再掲(現預金+長・短有価証券合計)	(22,869)	(21,480)	(20,917)	(21,839)	(25,650)	(4,412)
固定負債	36,398	38,742	36,376	34,251	31,508	△ 5,841
うち長期借入金	16,825	19,237	16,824	14,781	11,739	△ 5,973
退職給与引当金	19,573	19,505	19,551	19,469	19,769	133
流動負債	12,289	13,279	12,980	13,542	14,483	2,367
うち短期借入金	1,887	2,637	2,412	2,042	3,042	1,255
未払金	4,803	5,116	5,099	5,826	5,747	718
前受金	4,466	4,472	4,468	4,725	4,805	454
負債の部合計	48,687	52,021	49,356	47,793	45,992	△ 3,474
再掲(長・短借入金合計)	(18,712)	(21,875)	(19,237)	(16,824)	(14,781)	(△ 4,719)
基本金の部合計	117,374	119,824	123,216	126,539	129,384	13,987
消費収支差額の部合計	△ 62,945	△ 64,953	△ 67,573	△ 69,484	△ 67,219	△ 5,181
負債・基本金・消費収支差額の部合計	103,116	106,892	105,000	104,848	108,157	5,333
正味財産(自己資金)	54,428	54,871	55,643	57,054	62,164	8,806

※百万円未満切捨て

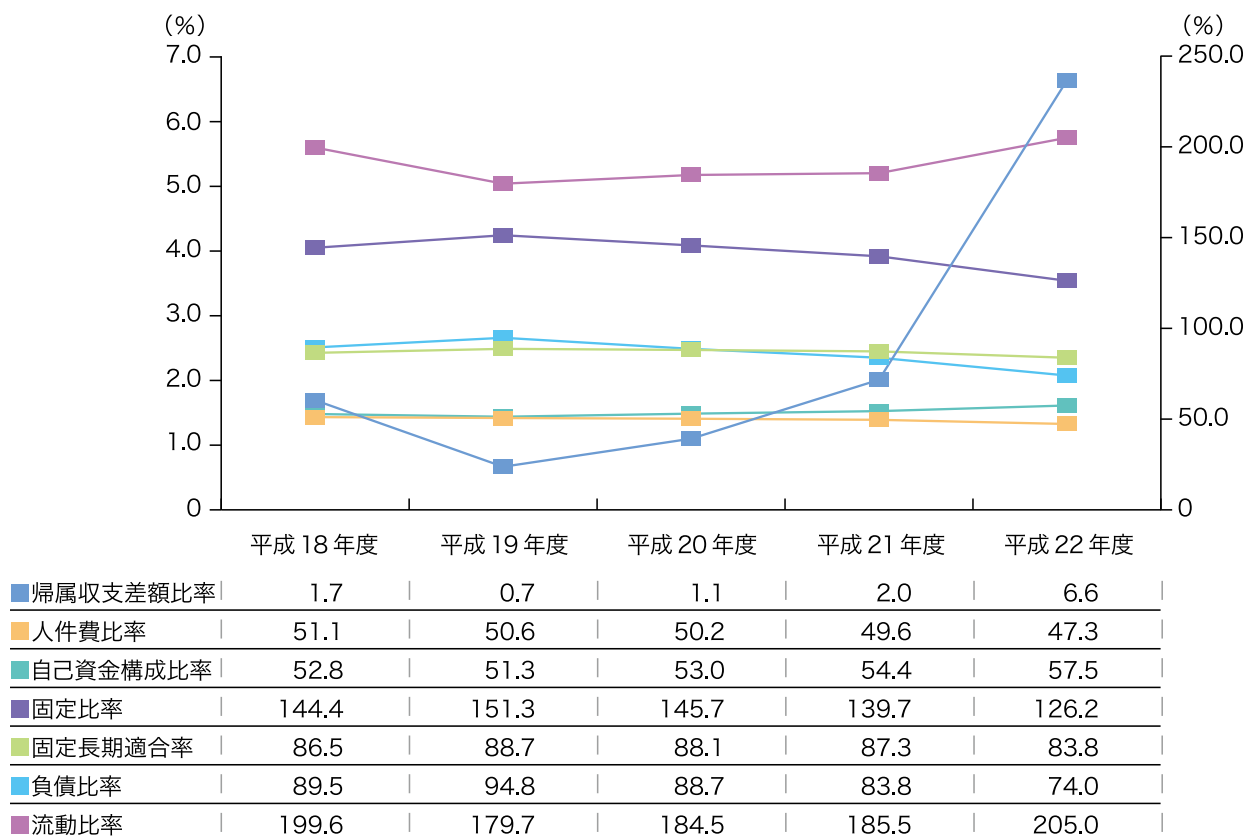
過去5年間の年度末貸借対照表の推移を示した。

この5年間で総資産は約53億円増加し、負債は約34億円減少した。その結果、正味財産(自己資金)は約88億円増加した。

資産の部では、固定資産が減少し流動資産が増加した。固定資産が減少した主な要因は指定金銭信託を30億円から一部解約して5億円で減額したためである。一方、流動資産が増加した主な要因は現金預金や未収入金が増加したためである。負債の部では、長期借入金等の固定負債が59億円減少したが、短期借入金や未払金等の流動負債が23億円増加した。尚、本法人では「返済期限が1年以内の長期借入金」を「短期借入金」に振り替えて表示している。

施設・設備投資等により基本金組入高は約139億円増加した一方、消費収支差額の累計は支出超過額が約51億円増加した。その差額の88億円は正味財産(自己資金)の増加額と一致する。

(3) 主要財務指標の動向



本法人の財務の状況を分析するための主要な財務指標を示した。

帰属収支差額比率 (%) : $(\text{帰属収入} - \text{消費支出}) \div \text{帰属収入} \times 100$

帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額の帰属収入に対する割合で、高いほど自己資金が充実されていることとなり、経営に余裕があるものとみなすことができる。

人件費比率 (%) : $\text{人件費} \div \text{帰属収入} \times 100$

人件費の帰属収入に対する割合を示す重要な比率で、低いほど良い。

自己資金構成比率 (%) : $\text{自己資金} \div \text{総資金} \times 100$

$$\text{自己資金} = \text{基本金} + \text{消費収支差額}$$

$$\text{総資金} = \text{負債} + \text{基本金} + \text{消費収支差額}$$

自己資金の総資金に占める構成割合である。学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も概括的で重要な指標である。高いほど良いとされている。

固定比率 (%) : $\text{固定資産} \div \text{正味財産 (= 自己資金)} \times 100$

固定資産のうちどの程度が自己資金で賄われているかを示す指標で、低いほど良いとされている。

固定長期適合率 (%) : $\text{固定資産} \div (\text{正味財産} + \text{固定負債}) \times 100$

固定資産のうちどの程度が自己資金と長期の借入金で賄われているかを示す指標である。

低いほど良いとされている。

負債比率 (%) : $\text{総負債} \div \text{正味財産} \times 100$

返済義務のある他人資金がどれだけ返済義務のない自己資金でカバーされているかを示し、低いほど財務の安定性が高いといえる。

流動比率 (%) : $\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$

流動比率とは、安全性分析の一指標で、流動負債(1年以内に返済すべき負債)を流動資産(短期間で換金可能な資産)がどの程度カバーしているかを示す比率である。

この比率が高いほど短期的な資金繰りに余裕があることを示す。

6. 財産目録

平成23年3月31日現在

I 資産総額	108,157,015,812円
内 基本財産	78,463,826,267円
運用財産	29,693,189,545円
II 負債総額	45,992,304,411円
III 正味財産	62,164,711,401円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地 (317,516.07m ²)	6,621,519,774円
建物 (321,807.39m ²)	49,481,605,554円
図書 (615,833冊)	6,337,508,297円
教具・校具・備品 (56,737点)	5,257,201,414円
建設仮勘定	23,226,000円
その他	10,742,765,228円
2 運用財産	
現金預金	19,132,498,456円
未収入金	9,672,076,415円
短期貸付金	28,750,000円
有価証券	600,000,000円
前払金	140,272,879円
その他	119,591,795円
資産総額	108,157,015,812円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	11,739,120,000円
退職給与引当金	19,769,693,186円
2 流動負債	
短期借入金	3,042,870,000円
その他	11,440,621,225円
負債総額	45,992,304,411円
正味財産 (資産総額－負債総額)	62,164,711,401円

平成22年度 事業報告書

平成23年5月27日 発行

学校法人東邦大学 法人本部総務部

〒143-8540 東京都大田区大森西5-21-16

03-3762-4151 内線2132・2128